

P5B-V

Motherboard

ASUS[®]

J2692

初版第 1 刷

2006年 8月

Copyright © 2006 ASUSTeK Computer Inc. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1)ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2)製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vii
安全上のご注意	viii
このマニュアルについて.....	ix
P5B-V仕様一覧.....	xi

Chapter 1: 製品の概要

1.1 ようこそ	1-1
1.2 パッケージの内容.....	1-1
1.3 特長	1-2
1.3.1 製品の特長	1-2
1.3.2 ASUS AI Lifestyle	1-3
1.3.3 ASUSの独自機能.....	1-5

Chapter 2: ハードウェア

2.1 始める前に	2-1
2.2 マザーボードの概要.....	2-2
2.2.1 設置方向.....	2-2
2.2.2 ネジ穴.....	2-2
2.2.3 マザーボードのレイアウト.....	2-3
2.2.4 レイアウトの内容	2-4
2.3 CPU.....	2-6
2.3.1 CPUを取り付ける.....	2-7
2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける.....	2-9
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す.....	2-11
2.4 システムメモリ.....	2-13
2.4.1 概要	2-13
2.4.2 メモリ構成.....	2-13
2.4.3 メモリを取り付ける.....	2-16
2.4.4 メモリを取り外す	2-16
2.5 拡張スロット.....	2-17
2.5.1 拡張カードを取り付ける.....	2-17
2.5.2 拡張カードを設定する	2-17
2.5.3 割り込み割り当て	2-18
2.5.4 PCI スロット.....	2-19
2.5.5 PCI Express x1 スロット	2-19
2.5.6 PCI Express x16 スロット×2	2-19

もくじ

2.6	ジャンパ	2-20
2.7	コネクタ	2-21
2.7.1	リアパネルコネクタ	2-21
2.7.2	内部コネクタ	2-23

Chapter 3: 電源をオンにする

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2
3.2.1	OSシャットダウン機能を使用する	3-2
3.2.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する	3-2

Chapter 4: BIOS セットアップ

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.1.1	ブートフロッピーディスクを作成する	4-1
4.1.2	ASUS EZ Flash 2	4-2
4.1.3	AFUDOS	4-3
4.1.4	ASUS CrashFree BIOS 3	4-5
4.1.5	ASUS Update	4-7
4.2	BIOS 設定プログラム	4-10
4.2.1	BIOSメニュー画面	4-11
4.2.2	メニューバー	4-11
4.2.3	ナビゲーションキー	4-11
4.2.4	メニュー	4-12
4.2.5	サブメニュー	4-12
4.2.6	構成フィールド	4-12
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-12
4.2.8	スクロールバー	4-12
4.2.9	ヘルプ	4-12
4.3	メインメニュー	4-13
4.3.1	System Time	4-13
4.3.2	System Date	4-13
4.3.3	Legacy Diskette A	4-13
4.3.4	Language	4-13
4.3.5	SATA 1、2、5、6	4-14

もくじ

4.3.6	IDE Configuration	4-15
4.3.7	システム情報	4-16
4.4	拡張メニュー	4-17
4.4.1	JumperFree Configuration	4-17
4.4.2	LAN Cable Status	4-19
4.4.3	USB 設定	4-20
4.4.4	CPU の設定	4-21
4.4.5	チップセット	4-22
4.4.6	オンボードデバイス設定構成	4-24
4.4.7	PCI PnP	4-26
4.5	電源メニュー	4-27
4.5.1	Suspend Mode	4-27
4.5.2	Repost Video on S3 Resume	4-27
4.5.3	ACPI 2.0 Support	4-27
4.5.4	ACPI APIC Support	4-27
4.5.5	APM の設定	4-28
4.5.6	ハードウェアモニタ	4-29
4.6	ブートメニュー	4-31
4.6.1	ブートデバイスの優先順位	4-31
4.6.2	ブート設定	4-32
4.6.3	セキュリティ	4-33
4.7	ツールメニュー	4-35
4.7.1	ASUS EZ Flash 2	4-35
4.7.2	ASUS Music Alarm	4-36
4.7.3	ASUS O.C. Profile	4-38
4.8	終了メニュー	4-39
Chapter 5: ソフトウェア		
5.1	OSをインストールする	5-1
5.2	サポート CD 情報	5-1
5.2.1	サポート CD を実行する	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	Make disk menu	5-4
5.2.5	マニュアルメニュー	5-5
5.2.6	コンタクトインフォメーション	5-5
5.2.7	その他の情報	5-6

もくじ

5.3	ソフトウェア情報.....	5-8
5.3.1	ASUS MyLogo2™	5-8
5.3.2	AI NET2.....	5-10
5.3.3	PC Probe II	5-11
5.3.4	ASUS Music Alarm.....	5-17
5.3.5	ASUS AI Suite.....	5-20
5.3.6	ASUS AI N.O.S.....	5-22
5.3.7	ASUS AI Gear	5-23
5.3.8	ASUS AI Nap.....	5-24
5.3.9	ASUS Advanced Q-Fan	5-25
5.3.10	ASUS AI Booster	5-26
5.3.11	SoundMAX® High Definition Audio	5-27
5.4	RAID	5-31
5.4.1	Serial ATA ハードディスクを取り付ける	5-31
5.4.2	JMicron® RAID	5-32
5.5	RAID/SATA ドライバディスクを作成する.....	5-40
5.5.1	OSに入らずにRAID/SATAドライバディスクを作成する.....	5-40
5.5.2	Windows® 環境で RAID/SATAドライバディスクを作成する....	5-40
参考: CPU の機能		
A.1	Intel® EM64T	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー).....	A-1
A.2.1	システム条件.....	A-1
A.2.2	EISTを使う	A-2
A.3	Intel® Hyper-Threading Technology.....	A-3

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: 電源をオンにする**
電源をオンにする手順と電源をオフにする手順について。
- **Chapter 4: BIOSのセットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 5: ソフトウェア**
マザーボードパッケージに付属のサポート CD の内容。
- **参考: CPUの機能**
このマザーボードでサポートするCPUの各機能と技術について。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト** (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

< > で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

Command

表記されている通りのコマンドを入力してください。
続けて[]で指示している文字列または値を入力してください。

例: DOS プロンプトで、コマンドラインを入力

```
afudos /i [filename]
```

↓

```
afudos /iP5BD.ROM
```

P5B-V 仕様一覧

CPU	LGA775 ソケット(Intel® Core™2 Extreme / Core™2 Duo / Pentium® Extreme / Pentium® D / Pentium® 4 / Celeron® D の各プロセッサに対応) Intel® 05B/05A/06 プロセッサに対応 Intel® Hyper-Threading Technology 対応 *詳細は www.asus.co.jp/ で Intel® CPU サポートリストをご覧ください。
チップセット	Intel® Clear Video Technology と拡張3D機能搭載 Intel® G965 Intel® ICH8
システムバス	1066 / 800 / 533 MHz
メモリ	メモリ×4 : 最大 8GB, DDR2 800 / 667 / 533 MHz, non-ECC, un-buffered メモリ デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ
VGA	統合型 Intel® Graphics Media Accelerator X3000(Intel® MGA X3000) 最高解像度 2048 x 1536 bpp (75Hz) 最高共有メモリ 256MB Microsoft® DX 9 と OpenGL 1.5, Pixel Shader 3.0をサポート
拡張スロット	PCI-E x16 スロット×2 (ブルーは x16 モード、ブラックは x2 / x4 モード) PCI-E x1 スロット×2 PCI スロット×3
記憶装置	サウスブリッジ Intel® ICH8 - SATA 3.0 Gb/s ポート×4 JMicron® JMB363 PATA と SATA コントローラ - UltraDMA 133/100/66 ×1 : PATA デバイス 2 台に対応 - 内部 SATA 3.0 Gb/s ポート×1 - 外部 SATA 3.0 Gb/s ポート×1 : RAID 0, 1, JBOD に対応
LAN	Marvell® 88E8001 PCI Gigabit LAN コントローラ
オーディオ	ADI® AD1988A 8チャンネルHDオーディオコーデック Jack-Sensing、Enumeration、Multi-streaming、 Jack-Retasking 機能に対応 同軸 S/P DIF 出力ポート(バック I/O に付属) ASUS Noise Filter
IEEE 1394	TI® 1394a コントローラ : IEEE 1394a ポート×2 に対応(ミッドボードとバックパネルに各 1 つ)
USB	USB2.0 ポート×10(ミッドボードに6ポート、バックパネルに4ポート)

(次項へ)

P5B-V 仕様一覧

ASUS AI Lifestyle 機能	ASUS Quiet サーマルソリューション: <ul style="list-style-type: none">- ASUS Advanced Q-Fan- ASUS AI Gear- ASUS AI Nap- ASUS ファンレス設計: Stack Cool 2 ASUS Crystal Sound <ul style="list-style-type: none">- Noise filter ASUS EZ DIY <ul style="list-style-type: none">- ASUS Q-Connector- ASUS O.C. Profile- ASUS CrashFree BIOS 3- ASUS EZ Flash 2
その他の機能	Multi-language BIOS ASUS Music Alarm
ASUS だけの オーバークロック機能	知的オーバークロックツール: <ul style="list-style-type: none">- AI NOS™ (非遅延オーバークロックシステム)- AI Overclocking (知的CPU 周波数チューナー)- ASUS PEG Link 自動でビデオカードのパフォーマンスを調節) <ul style="list-style-type: none">- ASUS AI Booster ユーティリティ Precision Tweaker: <ul style="list-style-type: none">- vDIMM: 4 段階 DRAM 電圧コントロール- vCore: 電圧の調節可能 (6.25 mV インCREMENT)- vChipset: 4 段階チップセット電圧コントロール Stepless Frequency Selection (SFS): FSBが調節可能 (1MHzインCREMENTで100MHz~500MHz) メモリ調節: 533 ~ 1066MHz PCI-Eの調節 (1MHzインCREMENTで 100 ~ 150MHz) オーバークロック保護機能: <ul style="list-style-type: none">- ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall)
リアパネル	PS/2 キーボードポート × 1 PS/2 マウスポート × 1 VGA ポート × 1 外部 Serial ATA ポート × 1 同軸 S/P DIF 出力ポート × 1 IEEE1394a × 1 LAN (RJ-45) ポート × 1 USB 2.0/1.1 ポート × 4 8チャンネルオーディオポート × 1

(次項へ)

P5B-V 仕様一覧

内部コネクタ	USB 2.0 コネクタ×3 :追加の USB 2.0 ポート 6 ポートに対応 フロッピーディスクドライブコネクタ×1 IDE コネクタ×1 :デバイス 2 台に対応 Serial ATA コネクタ×5 CPUファンコネクタ×1 ケースファンコネクタ×3 電源ファンコネクタ×1 ADH コネクタ×1 COM コネクタ×1 IEEE1394a コネクタ×1 S/P DIF 出力コネクタ×1 Azalia Digital Header×1 ケース開閉検出コネクタ フロントパネルオーディオコネクタ CD オーディオ入力コネクタ 24ピン ATX 電源コネクタ 8ピン ATX 12 V 電源コネクタ システムパネルコネクタ
BIOS	8 Mb Flash ROM、AMI BIOS、PnP、DMI 2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3、ACPI 2.0a、Multi-language BIOS、ASUS EZ Flash 2、ASUS CrashFree BIOS 3
マネージメント機能	WfM 2.0、DMI 2.0、PMEによる WOL、PMEによる WOR、PXE、AOL
電源	ATX 電源:24ピン/8ピン、12V プラグ ATX 12V 2.0 対応
サポート CD	各デバイスドライバ ASUS PC Probe II ASUS Update ASUS AI Suite ASUS Music Alarm アンチウイルスソフトウェア (OEM 版)
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5cm x 24.4cm (12"x 9.6")

*仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明

製品の概要

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容.....	1-1
1.3	特長	1-2

1.1 ようこそ

ASUS® P5B-V マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供する ASUS の高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中に以下のものが揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ASUS P5B-V
I/O モジュール	2 ポート USB 2.0 モジュール × 1
ケーブル	Serial ATA ケーブルキット × 1 Ultra DMA 133/100/66 ケーブル × 1 フロッピーディスクドライブケーブル × 1
アクセサリ	I/O シールド ASUS Q-Connector Kit × 1 (USB、1394、システムパネル:小売り商品のみ)
アプリケーション CD	ASUS マザーボードサポート CD
ドキュメント	ユーザーマニュアル(本書)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特長

1.3.1 製品の特長

Green ASUS



このマザーボードとパッケージは、欧州連合のRoHS指令（電気電子機器の特定有害物質使用規制）の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

LGA775 Intel® Core™2 プロセッサ対応



このマザーボードは最新の Intel® Core™2 プロセッサを LGA775 パッケージでサポートしています。新型 Intel® Core™ マイクロアーキテクチャ技術と 1066 / 800 MHz FSBの搭載で、Intel® Core™2 プロセッサは最もパワフルでエネルギー効率の高いCPUと言えます。

Intel G965 チップセット



本マザーボードが搭載する Intel® G965 Express チップセットは Intel® グラフィックス・メディア・アクセラレーター 3000 (Intel® GMA3000) というグラフィックスコアを内蔵し、2D および 3D のグラフィックス処理が可能です。また、Intel® クリアー・ビデオ・テクノロジーの搭載により、動画再生時に豊かな色彩表現を得られるほか、シャープな映像を楽しむことができます。その他にもメモリパフォーマンスを高める技術を搭載するなど、一歩先を行くチップセットと言えます。

DDR2 メモリサポート



本マザーボードは、800/667/533 MHz のデータ転送率の DDR2 メモリに対応。最新 3D グラフィック、マルチメディア、インターネットアプリケーションに対応できるより高速な帯域要求を充たします。デュアルチャンネル DDR2 アーキテクチャでシステムメモリの帯域は倍になり、システムのパフォーマンスを増強し、最高帯域 12.8 GB/s で混雑時のボトルネックを解消します。2つのチャンネル間でメモリサイズの制限なく、サイズの異なるメモリを同時にインストールでき、デュアルチャンネル機能を楽しむことができます。（詳細：2-13 ~ 2-16 参照）

IEEE 1394a サポート



IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器（ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等）との接続が柔軟かつ高速になりました。（詳細：2-23、2-26 参照）

Serial ATA 3.0 Gb/s 技術と SATA on the go



Serial ATA (SATA) 3Gb/s ストレージ規格をベースとする次世代ハードドライブをサポートしていますので、安定性が向上し、バスの帯域が倍増したことで高速データ転送を実現。後部の I/O にある 外部 SATA ポートでホットプラグ機能に対応しセットアップも簡単。写真や動画等のコンテンツを外付けデバイスにバックアップするのに便利です。(詳細: 2-22、2-25、2-26 参照)

S/P DIF デジタルサウンド対応



同軸/光学 S/P DIF 出力ジャックを通じ、外付けのホームシアターオーディオシステムへの接続できます。デジタルオーディオをアナログフォーマットに変換しませんので、質の高いサウンドがお楽しみいただけます。(詳細: 2-23、2-27 参照)

HD オーディオ



ハイエンドサウンドクオリティをお楽しみください。オンボード 8 チャンネル HD オーディオ (High Definition Audio: 以前のコードネームは Azalia) CODEC で、高品質の 192KHz/24bit オーディオ出力、ジャック検出機能、リタスキング機能、異なる種類のオーディオストリームを複数の場所にストリームできるマルチストリーミング技術が利用できます。これでマルチチャンネルのネットワークゲームをしながらヘッドフォン等を利用して、相手と会話することが可能になります。(詳細: 5-27 参照)

1.3.2 ASUS AI Lifestyle



ASUS Quiet Thermal Solution

ASUS Quiet サーマルソリューションで、システムはより安定しオーバークロック機能が向上します。

AI Gear



AI Gear には CPU と Vcore 電圧を調節できるオプションが 4 つあり、ノイズと電力消費を抑えることができます。最適なモードを選択してください。(詳細: 5-23 参照)

AI Nap



コンピュータを使用していない時、システムを最も低い電圧とノイズで動作させることができます。システムをウェークアップし OS 環境に戻すには、マウスをクリックするか、キーを押すだけです。(詳細: 5-24 参照)

Advanced Q-Fan



ASUS Advanced Q-Fan 技術はIntel Quiet System Technology を採用し、ファンのスピード変更がよりスムーズに。ファンの効率が上がるだけでなくファンスピードが急に上昇したときでも効果的にノイズを押さえます。また、システムの温度を安定させる機能も搭載されています。(詳細: 5-25 参照)

ファンレス設計 - Stack Cool 2



ファンレスでゼロノイズの冷却機能です。コンポーネントから出る熱を大幅に下げます。本製品ではPCB (printed circuit board) 上で熱を拡散するために特殊な設計を採用しています。

ASUS Crystal Sound

Skype やオンラインゲーム、ビデオ会議、録音等の人間の音声中心のアプリケーションの機能が増大します。

Noise Filter



コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ (肉声ではない信号) を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

ASUS EZ DIY

ASUS EZ DIY の各機能で、コンピュータの各コンポーネントの取り付けや、BIOSの更新、設定のバックアップが簡単にできます。

ASUS Q-Connector



ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単にできます。(詳細: 2-33 参照)

ASUS O.C. Profile



本マザーボードには、ASUS O.C. Profile 機能が搭載されており、複数の BIOS 設定を保存・ロードすることができます。各 BIOS 設定は CMOS またはファイルに保存することができ、BIOS 設定の利用と共有が簡単に行えます。(詳細: 4-38 参照)

ASUS CrashFree BIOS 3



破損したBIOS データを BIOSファイルを含むUSB フラッシュディスクから復帰することができます。(詳細: 4-5 参照)

ASUS EZ Flash 2



OSをロードする前でも、予め設定したホットキーを押すだけでBIOSの更新が簡単に行えます。DOSベースのユーティリティやブートディスクは不要です。

(詳細: 4-2 参照)

1.3.3 ASUSの独自機能

ASUS Multi-language BIOS



オプションから言語選択が可能です。特定の BIOS メニューでは、より簡単な設定が可能になります。(詳細: 4-13 参照)

ASUS Music Alarm



不快なアラーム音の代わりに、自分で設定した音楽で毎朝目覚めませんか? ASUS Music Alarm なら、OSを起動しなくても、設定したCDをアラーム音に設定することができます。(詳細: 4-36、5-17 参照)

ASUS MyLogo2™



この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。

(詳細: 4-32、5-8 参照)

1.3.4 ASUS 知的オーバークロック 機能

AI NOS™ (非遅延オーバークロックシステム)



ASUS NOS (Non-delay Overclocking System™:非遅延オーバークロックシステム) は、CPUの負荷を自動検知し、必要な時にだけCPU 速度を大幅にオーバークロックする技術です。(詳細: 5-22 参照)

PEG Link Mode



この機能を使用すると、PCI Express ビデオカードのパフォーマンスが上がります。システムの設定を基に、マザーボードが自動的にPCI Express グラフィックリンクモードを正常な周波数に調整します。PEG Link モードをオーバークロックする設定が4つあります。

Precision Tweaker



CPU/メモリの電圧を調整し、フロントサイドバス(FSB)とPCI Express 周波数を段階的に増加させ(1MHz インCREMENT)、最高のシステムパフォーマンスが得られます。

C.P.R. (CPU Parameter Recall)



オーバークロック時にシステムがハングした場合、BIOSをデフォルト値に自動再設定します。オーバークロックが原因でハングした場合は、シャットダウンし、再起動するだけです。ケースを開けてRTCデータをクリアする必要はありません。



チップセットの動作上、C.P.R. 機能を使用する際は AC 電源をオフにしてください。

システムの組み立てにおけるハードウェアのセットアップ手順と、マザーボードのジャンパやコネクタに関する説明

ハードウェア **2**

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.3	CPU	2-6
2.4	システムメモリ	2-13
2.5	拡張スロット	2-17
2.6	ジャンパ	2-20
2.7	コネクタ	2-21

2.1 始める前に

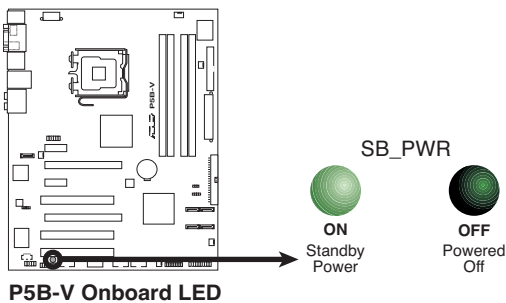
パーツの取り付けや設定を変更する前に、次の事項に注意してください。



- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボードLED

スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツを取り付けたり、取り外したりする際は、オンボードLEDを確認し、点灯している場合は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

2.2.1 設置方向

マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

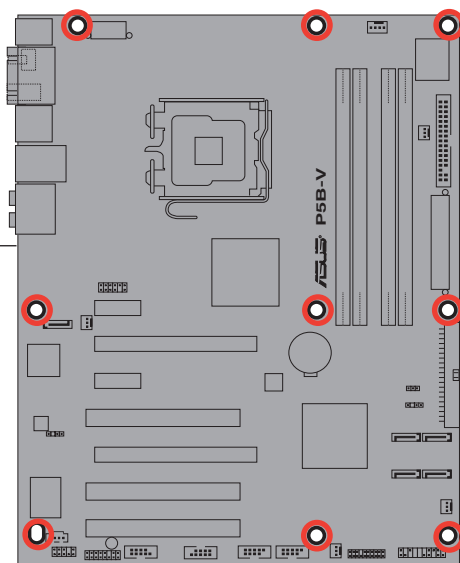
2.2.2 ネジ穴

ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。

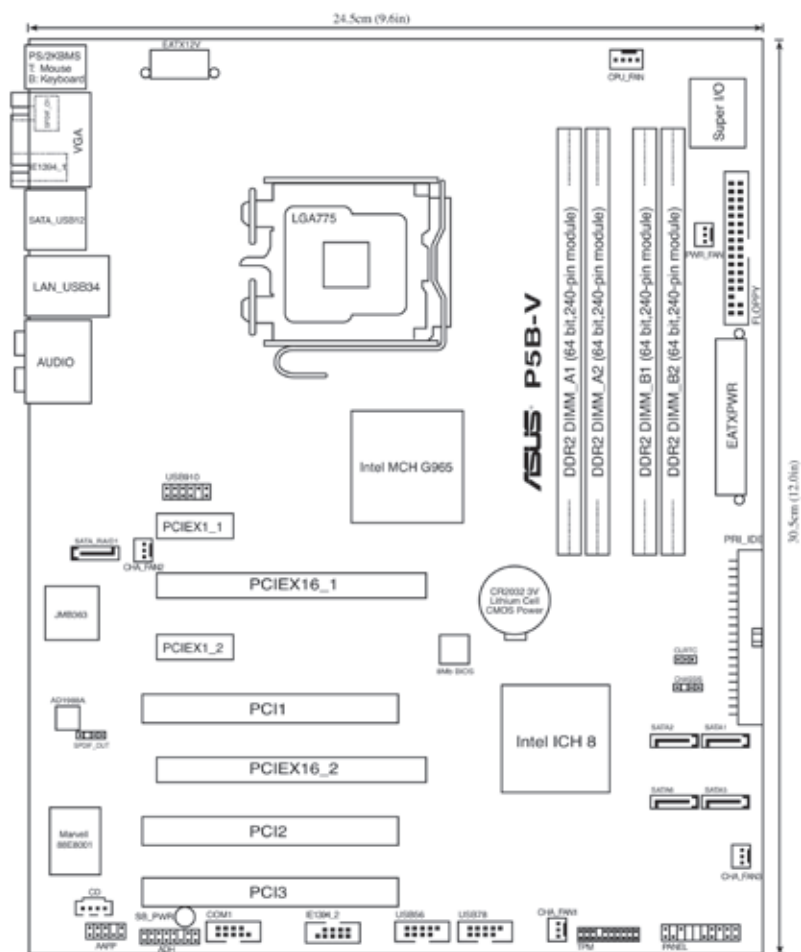


ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。

この面をケースの背面に
合わせます。



2.2.3 マザーボードのレイアウト



2.2.4 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. DDR2 メモリスロット	2-13
2. PCI スロット	2-19
3. PCI Express x1 スロット	2-19
4. PCI Express x16 スロット×2	2-19

ジャンパ	ページ
1. RTC RAMのクリア (3ピン CLRTC)	2-20

リアパネルコネクタ	ページ
1. PS/2 マウスポート (グリーン)	2-21
2. VGA ポート	2-21
3. USB 2.0 ポート 1 と 2	2-21
4. LAN (RJ-45) ポート	2-21
5. リアスピーカー出力ポート (ブラック)	2-21
6. センタ/サブウーファ ポート (オレンジ)	2-21
7. ライン入力ポート (ライトブルー)	2-21
8. ライン出力ポート (ライム)	2-21
9. マイクポート (ピンク)	2-21
10. サイドスピーカー出力ポート (グレー)	2-21
11. USB 2.0 ポート 3 と 4	2-22
12. 外部 SATA ポート	2-22
13. IEEE 1394a ポート	2-23
14. 同軸S/P DIF 出力ポート	2-23
15. PS/2 キーボードポート (パープル)	2-23

内部コネクタ	ページ
1. フロッピーディスクドライブ コネクタ (34-1ピンFLOPPY)	2-23
2. IDE コネクタ (40-1ピンPRI IDE)	2-24
3. ICH8 Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド]、SATA2 [レッド]、SATA3 [ブラック]、SATA4 [ブラック])	2-25
4. JMicron [®] JMB363 Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA RAID [ブラック])	2-26
5. IEEE 1394a ポート コネクタ (10-1ピンIE1394 2 [レッド])	2-26
6. デジタルオーディオ コネクタ (4-1ピンSPDIF)	2-27
7. 光学ドライブオーディオ コネクタ (4ピン CD)	2-27
8. USB コネクタ (10-1ピンUSB56、USB 78、USB910)	2-28
9. CPUファン、ケースファン、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2、3ピン CHA_FAN3、3ピン PWR_FAN)	2-29
10. Serial ポートコネクタ (10-1ピンCOM1)	2-29
11. ケース開閉検出コネクタ (4-1ピンCHASSIS)	2-30
12. フロントパネルオーディオ コネクタ (10-1ピンAAFP)	2-30
13. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン EATX12V)	2-31
14. システムパネル コネクタ (20-8ピンPANEL)	2-32

2.3 CPU

本マザーボードには Intel® Core™2/Pentium® D/Pentium® 4/Pentium® Extreme、Celeron® D プロセッサ対応のLGA775 ソケットが搭載されています。



-
- CPUを取り付ける際は AC 電源をオフにしてください。
 - デュアルコア CPUを取り付ける場合は、システム安定のためにケースファンケーブルを CHA_FAN コネクタに接続してください。
-

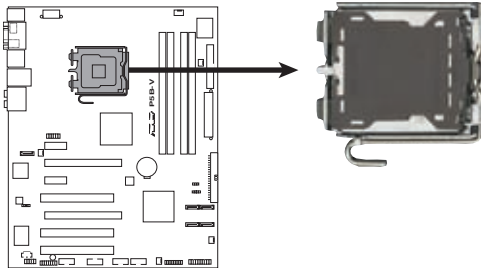


-
- マザーボードのご購入後すぐにソケットキャップがソケットに装着されていること、ソケットの接触部分が曲がっていないかを確認してください。ソケットキャップが装着されていない場合や、ソケットキャップ/ソケット接触部/マザーボードのコンポーネントに不足やダメージが見つかった場合は、すぐに販売店までご連絡ください。不足やダメージが出荷及び運送が原因の場合に限り、ASUSは修理費を負担いたします。
 - マザーボードを取り付けた後も、ソケットキャップを保存してください。ASUSは、このソケットキャップが装着されている場合にのみ、RMA (保証サービス)を受け付けます。
 - 製品保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障及び不具合には適用されません。
-

2.3.1 CPUを取り付ける

手順:

1. マザーボードのCPUソケットの位置を確認します。

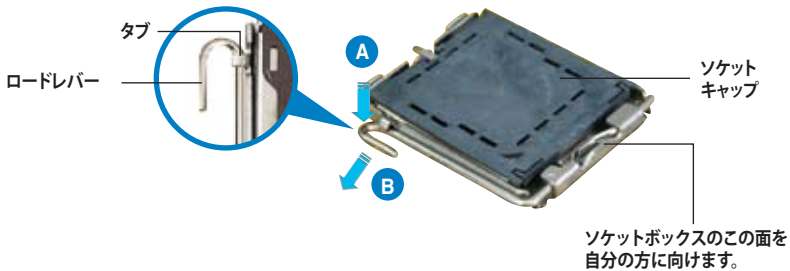


P5B-V CPU Socket 775



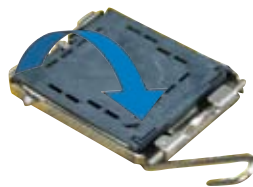
CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. 親指でロードレバーを押し(A)、タブから外れるまで左に動かします(B)。

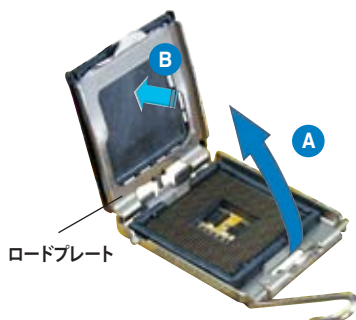


ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。

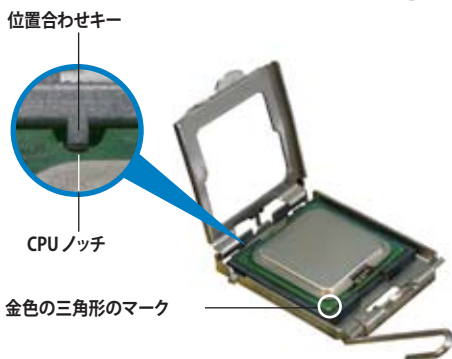
3. 矢印の方向に135°ほどロードレバーを持ち上げます。



4. ロードプレートを親指と人差し指で100°ほど持ち上げ(A)、ロードプレートウィンドウからソケットキャップを押し取り外します(B)。

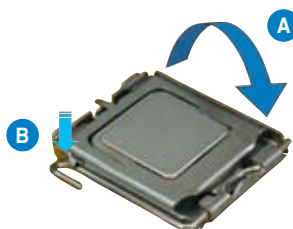


5. CPUに書かれている金色の三角形がソケット、ソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に乗せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったりあわせる必要があります。



CPUは一方方向のみぴたり合うようになっています。CPUをソケットに無理に押し込まないでください。ソケットのコネクタが曲がったり、CPUが破損したりする原因となります。

6. ロードプレート(A)を閉じ、ロードレバー(B)がタブに収まるまで押します。
7. デュアルコア CPUを取り付ける場合は、システムの安定性を図るためケースファンケーブルをCHA_FAN1コネクタに接続してください。



本製品は Intel® Extended Memory 64 Technology (EM64T)、Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)、Hyper-Threading Technology を搭載した Intel® LGA775 プロセッサをサポートしています。詳細は巻末の「参考」をご覧ください。

2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® LGA775 プロセッサ用に、特別に設計されたヒートシンクとファンを組み合わせることで、効率的な冷却を行いCPU パフォーマンスを引き出します。



- 箱入りの Intel® プロセッサを購入した場合、パッケージにはヒートシンクとファンが入っています。CPU のみをお求めになった場合、Intel® が認定したマルチディレクションヒートシンクとファンを必ずご使用ください。
- Intel® LGA775 用のヒートシンクとファンにはプッシュピンデザインが採用されており、取り付けの際に特別な工具は必要ありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリースをCPU、ヒートシンク、ファンに塗布してください。



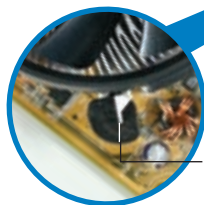
CPUファンとヒートシンクを取り付ける前に、ケースにマザーボードを取り付けてください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 4つのファスナーがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。



CPUファンケーブルとCPUファンコネクタをできるだけ近づけて、ヒートシンクとファンを配置してください。



溝の細い方

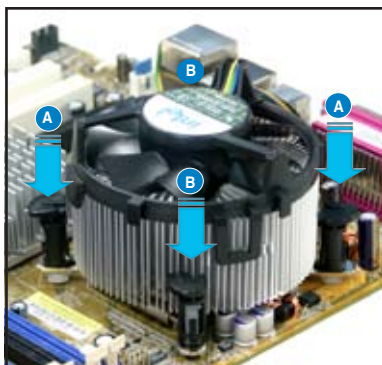
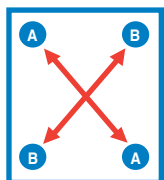
マザーボードの穴

ファスナー

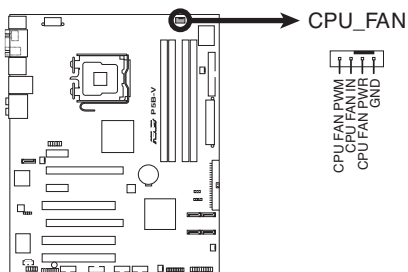


それぞれの留め具の溝の細い方が外側に向いていることを確認してください。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

2. 対角線上にある2つのファスナーを同時に押し下げ、ヒートシンクとファンを正しい場所に固定します。



3. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



P5B-V CPU Fan Connector

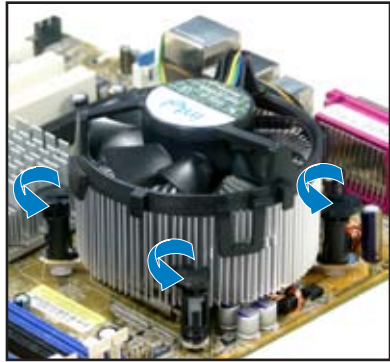


CPUファンのケーブルを必ず接続してください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

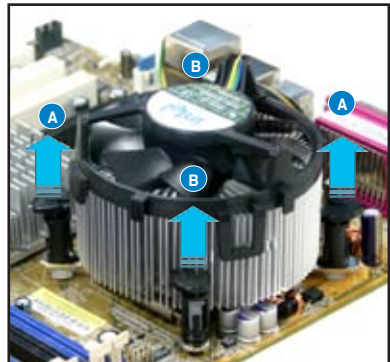
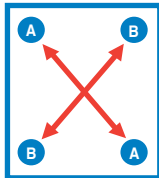
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す

手順

1. マザーボードのコネクタからCPUファンのケーブルを抜きます。
2. 各ファスナーを左へ回します。



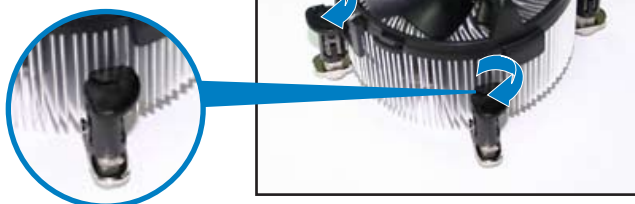
3. 対角線上の2つのファスナーを同時に引き抜いて、マザーボードからヒートシンクとファンを外します。



4. マザーボードからヒートシンクとファンを慎重に取り外します。



5. 再び取り付ける際には、ファスナーを右方向に回し、ファスナーの方向が正しいことを確認します。



再び取り付けた後には、溝の細い方が外側を向いている必要があります。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

溝の細い方



ファンの取り付けに際しては、CPUファンに付属の説明書などをお読みください。

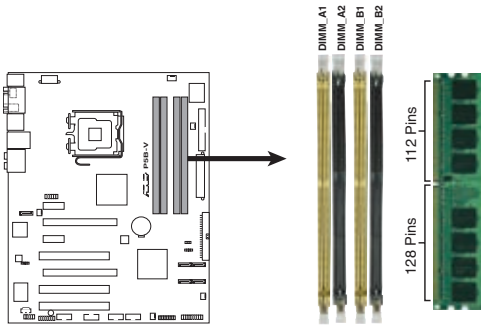
2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本製品には、DDR2 SDRAM に対応したメモリスロットが4つ搭載されています。

DDR2メモリはDDRメモリと同様の大きさですが、240ピンです(DDRメモリは184ピン)。DDR2メモリはDDRメモリのスロットに取り付けることができないように、異なるノッチが付けられています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



P5B-V 240-pin DDR2 DIMM slots

チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

2.4.2 メモリ構成

256 MB、512 MB、1 GB、2 GB unbuffered non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。



- サイズの異なるメモリを Channel A と Channel B にインストールできます。デュアルチャンネル設定ではサイズの低いチャンネルの合計が割り当てられません。サイズの大きいチャンネルの超過メモリはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- OS Windows® XP 32-bit では Physical Address Extension (PAE)をサポートしないため、1 GBまたは 2GB メモリを 4 枚取り付けた場合、システムは 3GB 以下のシステムメモリしか認識しないことがあります。これは、他の重要な機能用にアドレススペースが割り当てられるためです。
- Windows® XP 32-bit OSでは、合計 3 GB未満のシステムメモリを取り付けることをお勧めします。
- Intel® Quiet System Technology 用にアドレススペースが使用されるため、メモリの総容量は シングルチャンネルモードでは8MB、デュアルチャンネルモードでは 16MB 少なくなります。
- 本マザーボードは128Mb のメモリチップ、ダブルサイドで16個のメモリチップを搭載したメモリをサポートしません。



メモリの制限についての注記

- チップセットの制限により、下のOSでは8 GB までのサポートとなります。各スロットに最高 2 GB のメモリを取り付けることができますが、DDR2-533 と DDR2-667 2 GB のメモリしか使用できません。

32-bit	64-bit
Windows® 2000 Advanced Server	Windows® XP Professional x64 Edition

- 以前のバージョンの DDR2-800/667 メモリは、Intel® のOn-Die-Termination (ODT) の要求に合わないものもあり、自動的にダウングレードし、DDR2-533 で動作します。このような場合、メモリの販売店に ODT の値をお問い合わせください。
- チップセットの制限により、DDR2-800 (CL=4) はダウングレードし、デフォルトでDDR2-667 で動作します。低いレイテンシで動作させたい場合は、メモリのタイミングを手動で調整してください。
- チップセットの制限により、DDR2-667 (CL=3) はダウングレードし、デフォルトで DDR2-533 で動作します。低いレイテンシで動作させたい場合は、メモリのタイミングを手動で調整してください。

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト)

DDR2 800

サイズ	ベンダー	チップ No.	CL	チップブランド	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート(オプション)		
							A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	K4T51083QC	N/A	N/A	SS	KVR800D2N5/512	V	V	V
1024MB	KINGSTON	K4T51083QC	N/A	N/A	DS	KVR800D2N5/1G	V	V	V
512MB	SAMSUNG	EDD339XX	N/A	N/A	SS	M378T6553CZ3-CE7	V	V	V
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE7	N/A	N/A	SS	M378T3354CZ3-CE7	V	V	V
512MB	Qimonda	HYB18T256800AF25F	N/A	N/A	DS	HY564T64020HU-25F-A	V	V	V
512MB	Hynix	HY5PS12821BFP-S5	N/A	N/A	SS	HYMP564U64BP8-S5	V	V	V
1024MB	Hynix	HY5PS12821BFP-S5	N/A	N/A	DS	HYMP512U64BP8-S5	V	V	V
512MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	N/A	N/A	SS	MT8HTF6464AY-80EA3	V	V	V
1024MB	MICRON	5JAIIZ9DQQ	N/A	N/A	DS	MT16HTF12864AY-80EA3	V	V	V
512MB	MICRON	5ZD22D9GKX	N/A	N/A	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	V	V	V
1024MB	MICRON	5ZD22D9GKX	N/A	N/A	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	V	V	V
512MB	MICRON	6CD22D9GKX	N/A	N/A	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	V	V	V
1024MB	MICRON	6CD22D9GKX	N/A	N/A	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	V	V	V
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	CM2X1024-6400C4	V	V	V
512MB	A-DATA	N/A	N/A	N/A	SS	M20AD6G3H3160J1E52	V	V	V
512MB	A-DATA	AD29608A8A-25EG	N/A	N/A	SS	M20AD6G3H3160J1E5E	V	V	V
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	BL6464AA804.8FD	V	V	V
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	N/A	DS	BL12864AA804.16FD	V	V	V

DDR2 667

サイズ	ベンダー	チップ No.	CL	チップブランド	SS/DS	パーツ No.	メモリサポート(オプション)		
							A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	SS	KVR667D2N5/512	V	V	V
1024MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	DS	KVR667D2N5/1G	V	V	V
512MB	KINGSTON	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	SS	KVR667D2E5/512	V	V	V
256MB	KINGSTON	HYB18T256800AF3	N/A	N/A	SS	KVR667D2N5/256	V	V	V
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	N/A	N/A	SS	M378T3354CZ0-C66	V	V	V
512MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	N/A	N/A	SS	M378T6553CZ0-C66	V	V	V
1024MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	N/A	N/A	DS	M378T2953CZ0-C66	V	V	V
256MB	Qimonda	HYB18T512160AF-3S	N/A	N/A	SS	HY564T32000HU-3S-A	V	V	V
512MB	Qimonda	HYB18T512800AF3S	N/A	N/A	SS	HY564T64000HU-3S-A	V	V	V
1024MB	Qimonda	HYB18T512800AF3S	N/A	N/A	DS	HY564T128020HU-3S-A	V	V	V
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-3S	N/A	N/A	SS	HY564T32000HU-3S-B	V	V	V
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	N/A	N/A	SS	HY564T64000HU-3S-B	V	V	V
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	N/A	N/A	DS	HY564T128020HU-3S-B	V	V	V
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y5	N/A	N/A	SS	HYMP564U64AP8-Y5	V	V	V
512MB	Hynix	HY5PS12821AFP-Y4	N/A	N/A	SS	HYMP564U64AP8-Y4	V	V	V
256MB	ELPIDA	E2508AB-6E-E	N/A	N/A	SS	EBE25UC8A8FA-6E-E	V	V	V
512MB	ELPIDA	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	SS	EBE51UD8A8FA-6E-E	V	V	V
512MB	crucial	Heat-Sink Package	N/A	N/A	SS	BL6464AA663.8FD	V	V	V
512MB	A-DATA	AD29608A8B-3EG	N/A	N/A	SS	M20AD5Q3H3163J1C52	V	V	V
512MB	Transcend	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	SS	TS64MLQ64V6J	V	V	V
1024MB	Transcend	E5108AE-6E-E	N/A	N/A	DS	TS128MLQ64V6J	V	V	V
512MB	Transcend	J12Q3AB-6	N/A	N/A	SS	JM367Q643A-6	V	V	V
1024MB	Transcend	J12Q3AB-6	N/A	N/A	DS	JM388Q643A-6	V	V	V

サイズ: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド

メモリサポート

- A - シングルチャンネルメモリ構成として、1枚のモジュールを任意のスロットに取り付けることが可能。
- B - 1組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2枚1組のメモリをブルーのスロットまたはブラックのスロットに取り付けることが可能。
- C - 2組のデュアルチャンネルメモリ構成として、4枚のメモリをブルーのスロットとブラックのスロット両方に取り付けることが可能。



最新の QVL は ASUS の Web サイト (<http://www.asus.co.jp/>) をご覧ください。

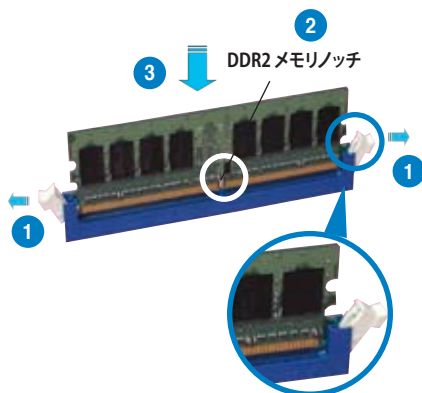
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

手順

1. 保持クリップを外側に押し、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。
3. 保持クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



ロック解除された保持クリップ



- DDR2 メモリは、取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。
- DDR2 メモリのスロットは DDR メモリをサポートしていません。DDR2 メモリのスロットに DDR メモリを取り付けしないでください。

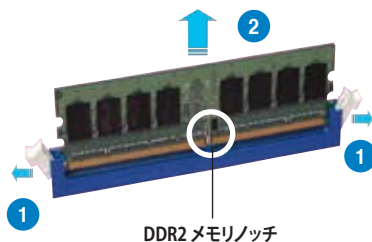
2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. 保持クリップを外側に同時に押し、メモリのロックを解除します。



保持クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。



2. スロットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 2 をご覧ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードをシェアスロットに挿入する際は、ドライバが、IRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。2つのPCIグループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなります。詳細は次のページの表をご覧ください。

2.5.3 割り込み割り当て

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	—	IRQ#9 にリダイレクト
3	12	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
4	13	通信ポート (COM1)*
5	14	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	15	フロッピーディスクコントローラ
7	16	プリンタポート (LPT1)*
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	ACPI*
10	5	SMBus コントローラ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	PS/2 互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリIDEチャンネル
15	10	セカンダリIDEチャンネル

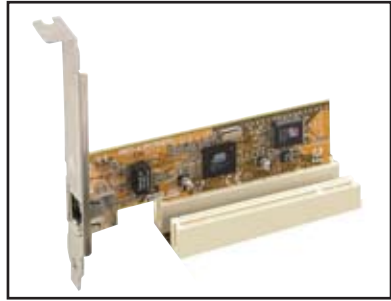
* 上の IRQ は通常、ISA または PCI デバイスで使用されています。

割り込み割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット1	—	—	—	—	—	共有	—	—
PCI スロット 2	—	—	—	—	—	—	共有	—
PCI スロット 3	—	—	—	—	—	—	—	共有
LAN(8001)	—	—	—	共有	—	—	—	—
SATA(JMB363)	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCIEX16_1	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCIEX16_2	共有	—	—	—	—	—	—	—
PCIEX1_1	—	—	共有	—	—	—	—	—
PCIEX1_2	—	—	—	共有	—	—	—	—
USBコントローラ 1	—	—	—	—	—	—	—	共有
USBコントローラ 2	—	—	—	共有	—	—	—	—
USBコントローラ 3	—	—	共有	—	—	—	—	—
USBコントローラ 4	共有	—	—	—	—	—	—	—
USBコントローラ 5	—	共有	—	—	—	—	—	—
USB 2.0コントローラ 1	—	—	—	—	—	—	—	共有
USB 2.0コントローラ 2	—	—	共有	—	—	—	—	—
SATA コントローラ 1	—	—	共有	—	—	—	—	—
SATA コントローラ 2	—	共有	—	—	—	—	—	—
HD オーディオ	—	—	—	—	—	—	共有	—

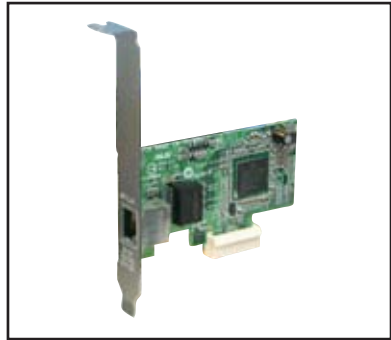
2.5.4 PCI スロット

PCI スロットは LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 仕様対応のカードをサポートします。写真は LAN カードを取り付けたものです。



2.5.5 PCI Express x1 スロット

本製品は PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード等の PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。写真はネットワークカードを取り付けたものです。



2.5.6 PCI Express x16 スロット × 2

本製品は PCI Express 規格準拠の ATI CrossFire™ PCI Express x16 ビデオカードを 2 枚取り付けることができます。



プライマリ PCI Express x16
スロット (ブルー)

セカンダリ PCI Express x16
スロット (ブラック)

2.6 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア(CLRTC)

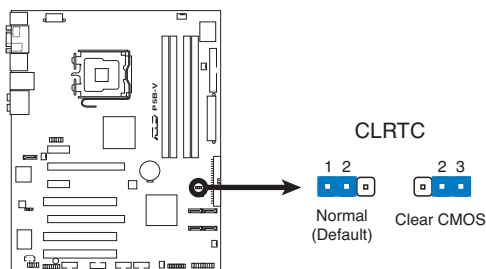
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システム/パスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの保持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. CLRTCのピン1-2にあるジャンパキャップをピン2-3に移動させます。5~10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



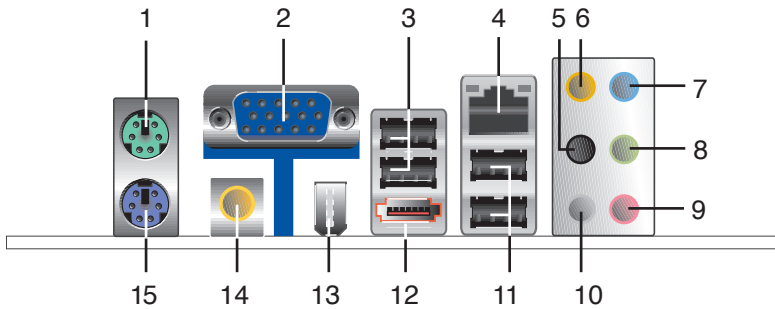
P5B-V Clear RTC RAM



- オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、RTC RAM をクリアする必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合、C.P.R.(CPU Parameter Recall)機能を使用してください。システムを自動的に停止して再起動すると、BIOS はパラメータ設定をデフォルト値にリセットします。
- チップセットの制限により、C.P.R機能を利用する際はAC 電源をオフにしてください。再起動する前に、電源をオフにして再びオンするか、プラグをコンセントから抜いて再び入れる必用があります。

2.7 コネクタ

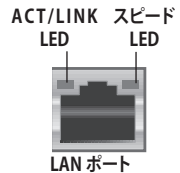
2.7.1 リアパネルコネクタ



1. PS/2 マウスポート (グリーン): PS/2マウス用です。
2. VGA ポート: VGA モニターまたは他の VGA対応デバイス用です。
3. USB 2.0ポート 1 と 2: USB 2.0デバイスを接続できます。
4. LAN (RJ-45)ポート: ローカルエリアネットワーク (LAN)と Gigabit Ethernet 接続ができます。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。

LAN ポートLED

Activity/Link スピード LED			
状態	説明	状態	説明
オフ	リンクなし	オフ	10 Mbps
オレンジ	リンク確立	オレンジ	100 Mbps
点滅	データ有効	グリーン	1 Gbps



5. リアスピーカ出力 (ブラック): このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
6. センター/サブウーファポート (オレンジ): センター/サブウーファースピーカーを接続します。
7. ライン入力ポート (ライトブルー): テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
8. ライン出力ポート (ライム): ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
9. マイクポート (ピンク): マイクを接続します。
10. サイドスピーカ出力ポート (グレー): 8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。
11. USB 2.0ポート 3 と 4: USB 2.0デバイスを接続できます。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカ出力	フロントスピーカ出力	フロントスピーカ出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	-	-	センタ/サブウーファ	センタ/サブウーファ
ブラック	-	リアスピーカ出力	リアスピーカ出力	リアスピーカ出力
グレー	-	-	-	サイドスピーカ出力

- 外部SATAポート：外部SATAボックスまたはSerial ATAポートマルチプライヤを接続します。また、外部Serial ATA HDDに対応しており、外部Serial ATA 3.0 Gb/s デバイス1台と併用すると、オンボード JMicron SATA RAID コントローラを通じて RAID 0、RAID 1、JBOD セットが設定できます。



外部 SATA ポートは外部 Serial ATA 3.0 Gb/s デバイスに対応しています。ケーブルは長いほど多くの電源が必要です(最長2メートルまで)。ホットスワップ機能が利用できません。



- Serial ATA ハードディスクで RAID セットを構築する前に、Serial ATA ケーブルを接続し、Serial ATA ハードディスクドライブを取り付けてください。POST で JMicron RAID ユーティリティと SATA BIOS Setup を開くことができなくなります。
- このコネクタで RAID を構築する場合は、BIOS の「JMicron SATA Controller Mode」の項目を [RAID] にしてください。詳細はセクション「4.4.6 オンボードデバイス設定構成」をご覧ください。



- 別のコネクタを差し込まないでください。
- RAID 0 または JBOD を構築している場合、外部 Serial ATA ボックスを取り外さないでください。

13. IEEE 1394a ポート :この6ピン IEEE 1394a ポートはオーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
14. 同軸 S/P DIF 出力ポート:同軸 S/P DIF ケーブルを使って外付けオーディオ出力デバイスを接続できます。
15. PS/2 キーボードポート(パープル):PS/2 キーボード用です。

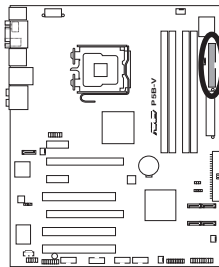
2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY)

フロッピーディスクドライブ(FDD)ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



FLOPPY

PIN 1

注意: フロッピーケーブルの赤いラインとPIN1の向きを合わせてください。

P5B-V Floppy Disk Drive Connector

2. IDE コネクタ (40-1ピンPRI_IDE)

Ultra DMA133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA 133/100/66 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

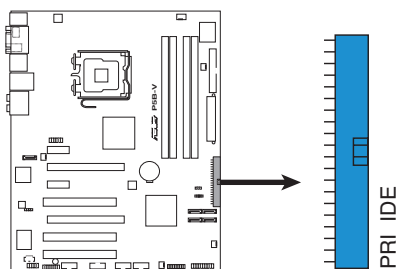
	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	ケーブルセレクト/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	ケーブルセレクト	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
	スレーブ	スレーブ	



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 133/100/66 IDE デバイスの場合は、80コンダクタIDEケーブルを使用します。



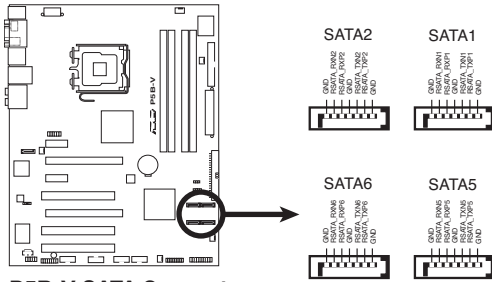
あるデバイスジャンパを「ケーブルセレクト」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。



P5B-V IDE Connector

3. ICH8 Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1 [レッド]、SATA2 [レッド]、SATA5 [レッド]、SATA6 [レッド])

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。



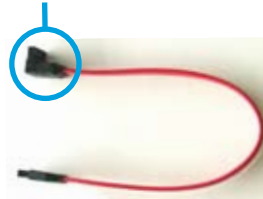
P5B-V SATA Connectors



直角部分



SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

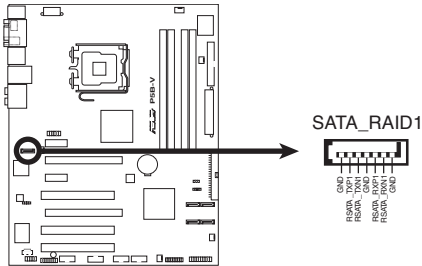


4. JMicron JMB363[®] Serial ATA RAID コネクタ (7ピン SATA_RAID [ブラック])

このコネクタは Serial ATA ケーブル用です。このコネクタは Serial ATA ハードディスクドライブに対応しており、RAIDをオンボード Serial ATA RAID コントローラで構築できます。



BIOSの「JMicron SATA controller mode」の項目はデフォルトで [IDE] に設定されています。RAIDを構築する場合は [RAID] に変更してください。詳細は「4.4.6 オンボードデバイス設定構成」をご覧ください。



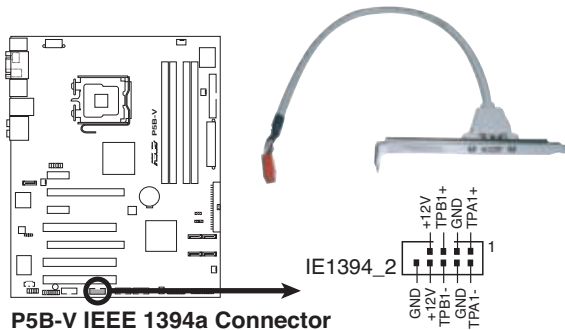
P5B-V SATA RAID Connector



Serial ATA ハードディスクでRAIDを構成する前には必ず、Serial ATA ケーブルを接続し Serial ATA HDDを取り付けてください。POSTでJMicron[®] JMB363 RAID ユーティリティと SATA BIOS を開くことができなくなります。

5. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1ピンIE1394_2 [レッド])

IEEE 1394 ポート用です。IEEE 1394 ケーブルをこのコネクタに接続します。



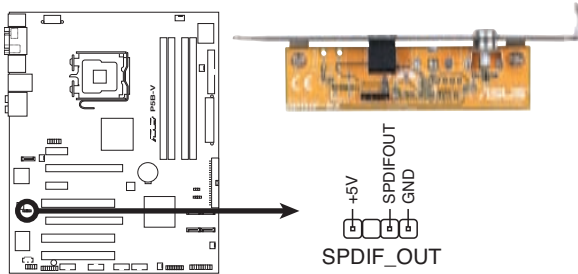
P5B-V IEEE 1394a Connector



IEEE 1394a モジュールは別売りとなっております。

6. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF)

このコネクタは追加のS/P DIFポート用で、S/P DIF 出力ケーブルをこのコネクタに接続します。



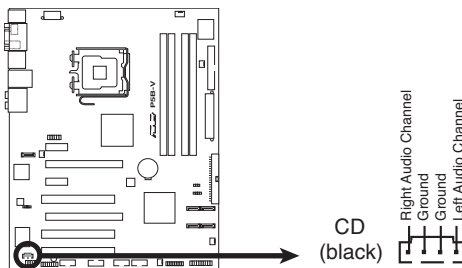
P5B-V Digital Audio Connector



S/P DIF モジュールは別売りとなっております。

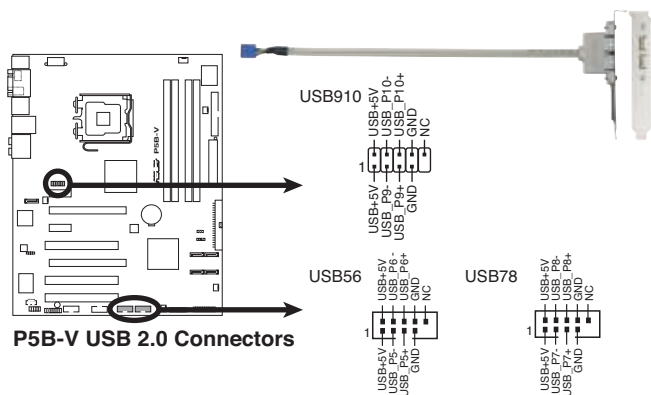
7. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)

CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



P5B-V Internal Audio Connector

8. USB コネクタ (10-1ピンUSB56 [ブルー]、USB 78 [ブルー]、USB910 [ブルー])
USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



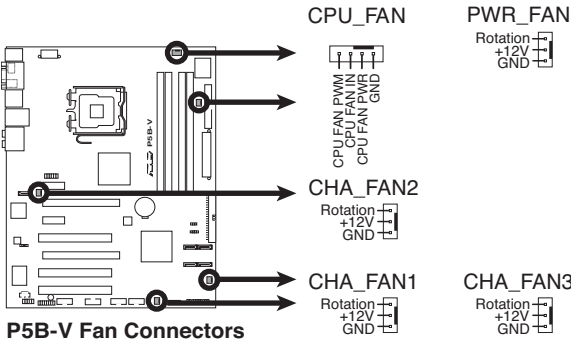
まず、USB ケーブルを ASUS Q-コネクタ (USB、ブルー) に接続し、Q-コネクタ (USB) をオンボード USB コネクタに取り付けることができます。

9. CPU ファンコネクタ、ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1、3ピン CHA_FAN2、3ピン CHA_FAN3、3ピン PWR_FAN)

各ファンコネクタは +12V で、350 mA ~ 2000 mA (最高 24 W) または合計 1 A ~ 7 A (最高 84 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



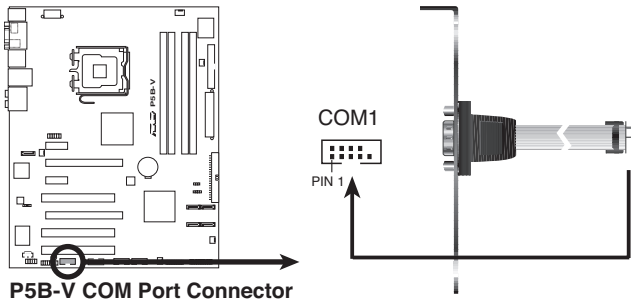
ファンケーブルをファンコネクタに必ず接続してください。ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。



全てのファンコネクタが ASUS Advanced Q-Fan 機能に対応しています。

10. Serial ポートコネクタ (10-1ピンCOM1 [ブルー])

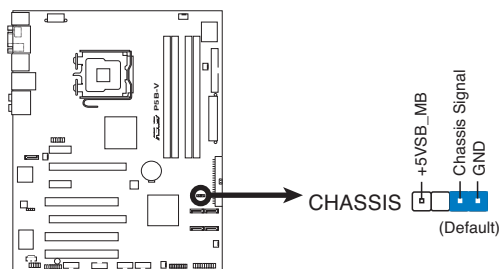
このコネクタは Serial (COM) ポート用で、Serial ポートケーブルをこのコネクタに接続します。



COM モジュールは別売りとなっております。

11. ケース開閉検出 コネクタ (4-1ピンCHASSIS)

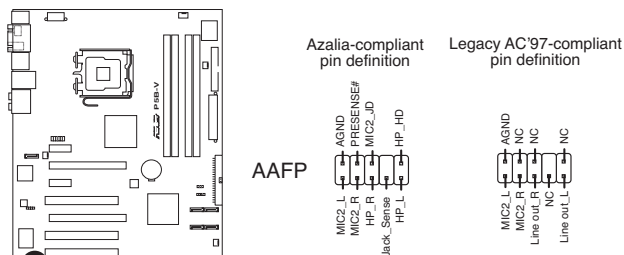
ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントを取り外したり交換するときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。



P5B-V Chassis Intrusion Connector

12. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピンAAFP)

ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC'97オーディオをサポートしています。オーディオI/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。



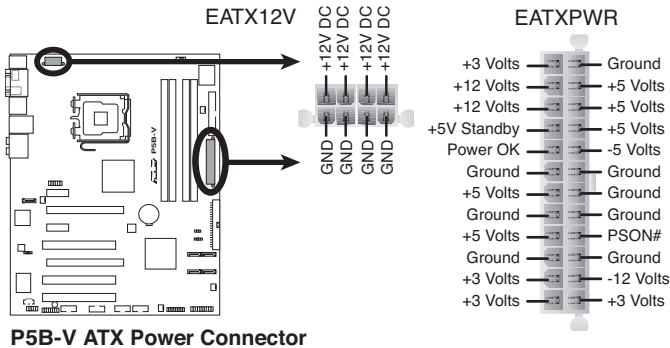
P5B-V Front Panel Audio Connector



- HDオーディオ機能を最大限に活用するため、HDフロントパネルオーディオモジュールを接続することをお勧めします。
- デフォルトではこのコネクタはAC97になっています。HDオーディオを使用するにはBIOSで「Front Panel Support Type」の項目を [HD Audio]にします。詳細はセクション「4.4.6 オンボードデバイス設定構成」をご覧ください。

13. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン EATX12V)

ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと差し込んでください。



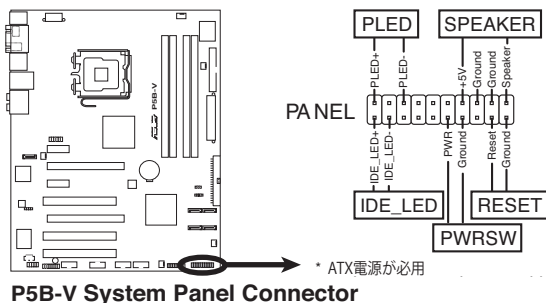
P5B-V ATX Power Connector



- 完全なシステムには、最低 400 W ATX 12 V 仕様 2.0 対応電源ユニット (またはそれ以降) を使用することをお勧めします。
- 4 ピン ATX +12 V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になったり起動できなくなったりします。
- ATX 12 V 仕様 2.0 対応 (400W) 電源ユニットは、以下の条件でテストした結果、本マザーボードの使用上問題がありません。
CPU: Intel® Pentium® Extreme 3.73GHz
メモリ: 512 MB DDR2 (×4)
ビデオカード: ASUS EAX1900XT
Parallel ATA デバイス: IDE ハードディスクドライブ
Serial ATA デバイス: SATA ハードディスクドライブ (×2)
光学ドライブ: DVD-RW

14. システムパネルコネクタ (20-8ピンPANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



- システム電源LED (2ピン PLED)
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯しシステムがスリープモードに入ると点滅します。
- HDD アクティビティ LED (2ピン IDE_LED)
HDDアクティビティLED用です。HDDアクティビティLEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯または点滅します。
- システム警告スピーカー(4ピン SPEAKER)
システム警告スピーカー用です。スピーカーはビープ音で警告を發します。
- ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2ピン PWRSW)
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。またBIOSの設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを4秒以上押し、システムの電源はオフになります。
- リセットボタン (2ピン RESET)
ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずシステムを再起動します。

Q-Connector (システムパネル)

ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

手順 1.

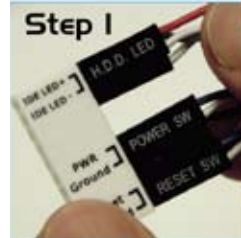
フロントパネルを ASUS Q-Connector に接続します。向きはQ-Connector 上にある表示を参考にしてください。

手順2.

ASUS Q-Connector をシステムパネルコネクタに取り付けます。

手順 3.

これでフロントパネルの各機能が使用です。



電源をオンにする手順から、音声による
POSTメッセージ、電源をオフにする手順

電源をオンにする **3**

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする.....	3-2

3.1 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニタ
 - b. 外部のSCSIデバイス(ディジーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニタが“グリーン”規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニタのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンプ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。

AMI BIOS ビーブコード

ビーブ	エラー
ビーブ1回	キーボードコントローラエラー 時間のリフレッシュエラー マスタドライブが検出できない
短いビーブ2回に続くビーブ2回の連続	フロッピーコントローラエラー
短いビーブ4回に続く連続ビーブ2回	ハードウェアコンポーネントエラー

7. 電源をオンにした時に、<Delete>キーを押してBIOS設定に入ります。Chapter 4の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する

Windows® 2000をご使用の場合

1. スタートボタンを押し、シャットダウンをクリックします。
2. シャットダウンオプションボタンが選択されていることを確認し、OKボタンを押してコンピュータをシャットダウンします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置はオフになります。

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押し続けると、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
(詳細 Chapter 4「4.5 電源メニュー」参照)

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法と BIOS パラメータの詳細

BIOS セットアップ ⁴

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.2	BIOS 設定プログラム	4-10
4.3	メインメニュー	4-13
4.4	拡張メニュー	4-17
4.5	電源メニュー	4-27
4.6	ブートメニュー	4-31
4.7	ツールメニュー	4-35
4.8	終了メニュー	4-39

4.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. ASUS EZ Flash 2 (フロッピーディスク/USB フラッシュディスク、サポート CD を使用し、DOS モードで BIOS をアップデートします。)
2. ASUS AFUDOS (ブートフロッピーディスクを使用して、DOS モードで BIOS を更新)
3. ASUS CrashFree BIOS 3 (BIOS ファイルがエラーを起こしたり破損したりしたとき、ブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスクまたはサポート CD を使用して、BIOS を更新)
4. ASUS Update (Windows® 環境で BIOS を更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復元できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスクにコピーしてください。ASUS Update または AFUDOS を使用して、BIOS のコピーを行います。

4.1.1 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。
 - DOS 環境
 - a. ドライブに 1.44MB のフロッピーディスクを挿入します。
 - b. DOS プロンプトで、**format A:/S** を入力し、<Enter> を押します。
 - Windows® XP 環境
 - a. 1.44 MB のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
 - b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
 - c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
 - d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
 - e. フォーマットオプションから、「MS-DOS の起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。
 - Windows® 2000 環境

Windows® 2000 での起動ディスクの作成手順

 - a. フォーマット済みの 1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
 - b. Windows® 2000 のインストール CD を光学ドライブに挿入します。
 - c. 「スタート」をクリックし、「Run」を選択します。
 - d. オープンフィールドで、**D:\bootdisk\makeboot a:** と入力します。「D」は光学ドライブです。ご使用の環境によって異なります。
 - e. <Enter> を押し、スクリーンの指示に従います。

2. 更新を行うBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

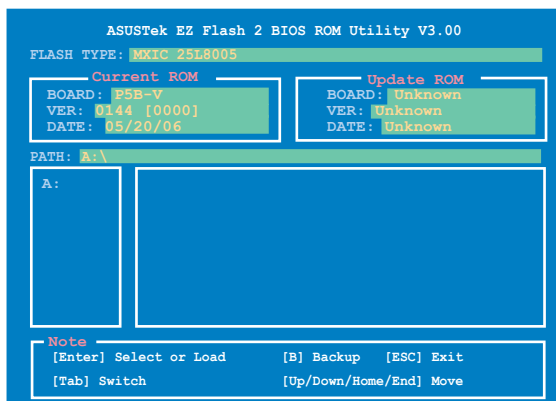
4.1.2 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。EZ Flash ユーティリティは内蔵の BIOS チップです。システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すとEZ Flash 2 を起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USB フラッシュディスクに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USB フラッシュディスクをフロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。

<Tab> を使ってドライブを変更し<Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が自動的に BIOS をアップデートし、システムが再起動されます。



- FAT 32/16 フォーマットのUSBフラッシュディスク、HDD、フロッピーディスクのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムをオフにしたり、リセットしたりしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.1.3 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存したブートフロッピーディスクを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。

現在のBIOSをコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。



- フロッピーディスクが書き込み可能な状態で、かつファイルを保存するために少なくとも 1024KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用している BIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. 4.1.1で作成したブートフロッピーディスクに、AFUDOS (afudos.exe) をコピーします。
2. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

```
afudos /o[filename]
```

[filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.rom
```

ファイル名 拡張子

3. <Enter>を押します。マザーボードのBIOSファイルがフロッピーディスクにコピーされます。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.
Reading flash ..... done
Write to file..... ok
A:\>
```

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



紙などにBIOSファイル名を書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. 4.11 で作成したブートフロッピーディスクに AFUDOS (afudos.exe) をコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

```
afudos /i[filename]
```

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iP5B-V.ROM
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iP5B-V.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOS の更新中にシステムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムエラーの原因となります。

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iP5B-V.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done

Please restart your computer

A:\>
```

4.1.4 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 は BIOS の自動復元ツールで、BIOS 更新時に障害を起こしたり破損したりした BIOS ファイルを復元します。破損した BIOS は、サポート CD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク、USB フラッシュディスクで更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存したフロッピーディスク、USB フラッシュディスクをお手元にご用意ください。
- フロッピーディスクまたは USB フラッシュディスク内にあるオリジナル/更新した BIOS ファイルの名前を P5B-V.ROM にしてください。

USB フラッシュディスクから BIOS を復元する

手順

1. BIOS ファイルを保存した USB フラッシュディスクを USB ポートにセットします。
2. システムをオンにします。
3. デバイスが検出されると自動的に BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



ディスプレイがオンボード VGA コネクタに接続されている場合、CrashFree BIOS 3 がシステムの更新を開始している間、ディスプレイはオフになりシステムから 1 回ビープ音が出ます。更新が終了すると再度ビープ音が出され、システムが再起動するとディスプレイは通常の状態に戻ります。



- ASUS CrashFree BIOS 3 は FAT 32/16 フォーマットでシングルパーティションの USB フラッシュディスクのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
- BIOS を更新している間に、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

フロッピーディスクから BIOS を復元する

手順

1. システムをオンにします。
2. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクを FDD にセットします。
3. 下のメッセージが表示され、フロッピーディスクの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```



ディスプレイがオンボード VGA コネクタに接続されている場合、CrashFree BIOS 3 がシステムの更新を開始している間、ディスプレイはオフになりシステムから1回ビーブ音が出ます。更新が終了すると再度ビーブ音が出され、システムが再起動するとディスプレイは通常の状態に戻ります。

検出されると BIOS ファイルを読み込み BIOS の更新が開始されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P5B-V.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間にシステムをシャットダウンしたりリセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。

サポート CD から BIOS を復元する

手順

1. システムの電源をオンにします。(フロッピーディスクドライブは空です)
2. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、CD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。



ディスプレイがオンボード VGA コネクタに接続されている場合、CrashFree BIOS 3 がシステムの更新を開始している間、ディスプレイはオフになりシステムから1回ビーブ音が出ます。更新が終了すると再度ビーブ音が出され、システムが再起動するとディスプレイは通常の状態に戻ります。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

フロッピーディスクが検出されないと、自動的に光学ドライブの BIOS ファイルがチェックされ、BIOS の更新が開始されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found!
Reading file "P5B-V.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間に、システムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。



最新の BIOS は ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

4.1.5 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能が実行できます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- ・ インターネットから直接 BIOS を更新する
- ・ BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。メニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、ASUS Update をクリックします。(ユーティリティのメニュー内容については ページ 5-3 をご覧ください)
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

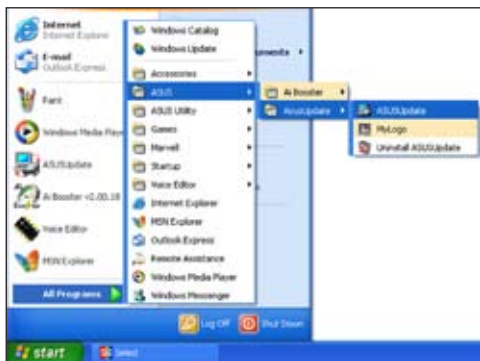


このユーティリティを使用して BIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー→プログラム→ASUS→ASUSUpdate→ASUSUpdateをクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。



3. 最寄りのASUS FTPサイトを選択するか、「Auto Select」をクリックし、「Next」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新できます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。



3. Openダイアログから BIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアチップセットを搭載しており、「4.1 BIOS の更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更したりすることができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、ファームウェアハブまたはCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、BIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

POSTの終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、以下の手順の1つを実行し、システムを再起動してください。

- OSのシャットダウン手順で再起動
- <Ctrl>+<Alt>+を同時に押す
- ケースのリセットボタンを押す
- 電源ボタンを押して電源を1度切り、もう1度入れる



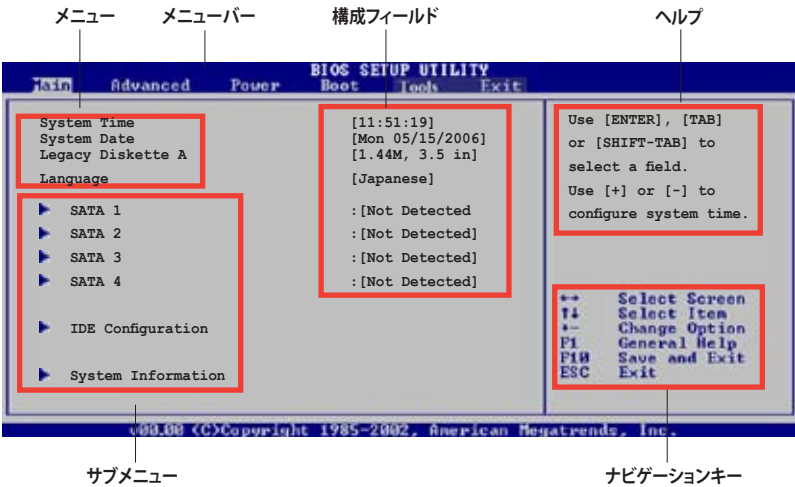
OSの起動中に電源ボタン、リセットボタン、<Ctrl>+<Alt>+キーを使って再起動するとデータやシステム損傷の原因となる場合があります。OSから正しくシャットダウンすることを推奨します。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールしたり、使用可能なオプションから設定を選択したりすることができます。



- このマザーボードのデフォルトのBIOS設定はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルト設定をロードしてください。デフォルト設定に戻すには、終了メニューの下の「Load default Setting」を選択します。(詳細は「4.8 終了メニュー」をご参照ください)
- 本書に掲載したBIOSの画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新のBIOSはASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

4.2.1 BIOSメニュー画面



4.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理(APM)設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Tools	EZ Flash 2 と O.C. Profile の設定用
Exit	終了オプションとロードデフォルト設定の選択用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

4.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

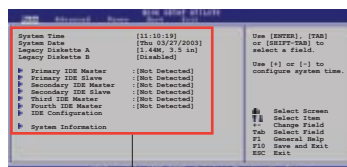


ナビゲーションキーは一例です。

4.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

4.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

4.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更できます。ユーザーによる変更が不可能でない項目は、選択することができません。

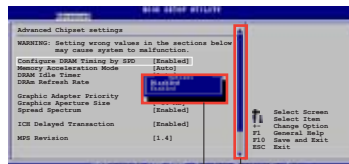
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を選択するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

画面に収まりきらないアイテムがある場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

4.2.9 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「4.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



4.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション: [Disabled] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

4.3.4 Language [English]

BIOS 内の言語を設定します。

設定オプション: [Japanese] [English]

4.3.5 SATA1, SATA2, SATA5, SATA6

BIOSは接続されたIDEデバイスを自動的に検出します。「Device」を選択し、<Enter>を押すとIDEデバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoringの値を自動的に検出します。これらの項目の値をユーザーが変更することはできません。また、システムにIDEデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切なIDEデバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。

設定オプション:[Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBAモードが有効になります。デバイスがLBAモードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。

設定オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによるモニタ、分析、報告機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

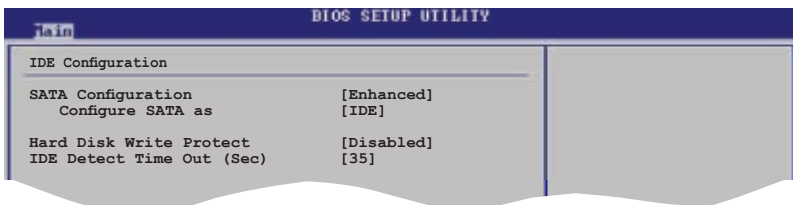
32Bit Data Transfer [Disabled]

32bit データ転送の設定。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.6 IDE Configuration

IDE デバイスの設定を変更します。設定を変更したい項目を選択し <Enter>を押します。



SATA Configuration [Enhanced]

設定オプション: [Compatible] [Enhanced] [Disabled]

Configure SATA as [IDE]

設定オプション: [IDE] [AHCI]

SATA 1、2、5、6 でのAHCI モードは現在のOSでは無効ですが、今後リリースされる新型OSではサポートされる予定です。

Hard Disk Write Protect [Disabled]

ハードディスクにライトプロテクトを設定します。BIOS からのアクセスしか行わない場合に使用します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

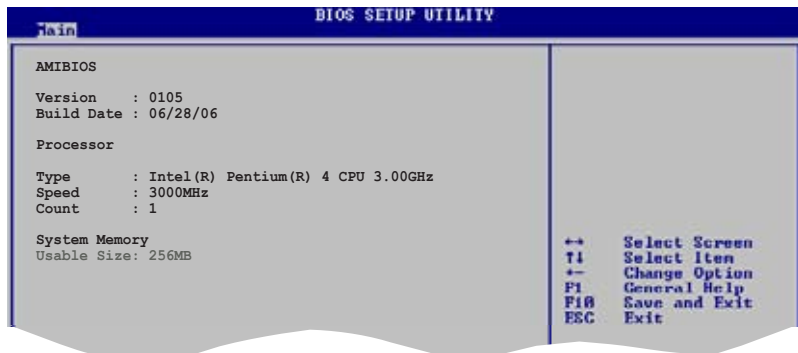
IDE Detect Time Out [35]

ATA/ATAPI デバイスの検出用にタイムアウトを設定します。

設定オプション: [0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

4.3.7 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

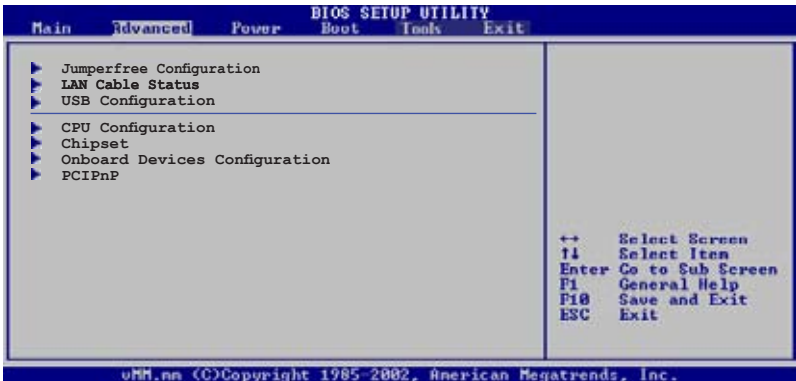
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

4.4 拡張メニュー

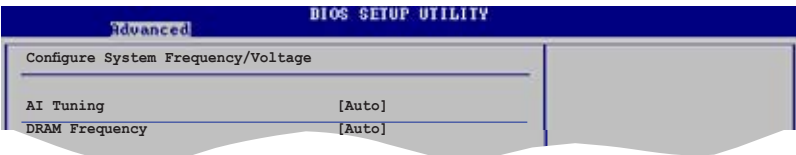
CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。



拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



4.4.1 Jumperfree Configuration



AI Tuning [Auto]

CPU 周波数と関連項目の設定。下の設定オプションから選択してください。

Manual 自分でオーバークロックパラメータの設定が可能。

Auto 最適な設定をロードします。

Standard スタンダード設定をロードします。

AI N.O.S. ASUS AI Non-delay Overclocking System 機能で、システムの負荷を検出し自動的にパフォーマンスを向上させます。

DRAM Frequency [Auto]

DDR2 メモリの動作周波数を設定します。

設定オプション:

FSB 設定と利用可能な DRAM 周波数オプション

FSB	設定オプション					
	Auto	DDR2-533	DDR2-667	DDR2-800*	DDR2-889*	DDR2-1067*
FSB 1066	•	•	•	•	•	•
FSB 800	•	•	•	•		

*オーバークロック時のみ。



高すぎる DRAM 周波数を設定すると、システムが不安定になる場合があります。不安定になった場合は、設定をデフォルトに戻してください。



下の項目は「AI Tuning」を [Manual]にした場合のみ表示されます。

CPU Frequency [200]

FSB 周波数を表示します。値は BIOS により自動検出されます。<+> と <-> キー、またはニューメリックキーを使って周波数を調整してください。設定できる値は 100 から 400 の範囲です。

FSB 周波数とCPU外部動作周波数

FSB 周波数	CPU 外部動作周波数
FSB 1066	266 MHz
FSB 800	200 MHz
FSB 533	133 MHz

PCI Express Frequency [Auto]

PCI Express の周波数の設定をします。
設定オプション: [Auto] [90] [91] [92] [93]... [150]

PCI Clock Synchronization Mode [Auto]

PCI Express または CPU 周波数で PCI 周波数の同期を取ります。
設定オプション: [Auto] [33.33MHz]



次の項目は「AI Tuning」の項目を [Manual] または [AI N.O.S.] に設定すると表示されます。

Memory Voltage [Auto]

DDR2 メモリの電圧を選択します。
設定オプション: [Auto] [1.80V] [1.90V]... [2.45V]

CPU VCore Voltage [Auto]

CPU のVCore 電圧を設定できます。設定オプションは取り付けたCPUによって異なります。[Auto]にするとBIOSは取り付けたCPUのVCore 電圧を検出します。
設定オプション: [1.7000V] [1.6875V] ... [1.2875] [1.2750]



「CPU Vcore Voltage」の設定を行う前にCPUの説明書をご覧ください。「CPU VCore Voltage」の変更により、CPUが損傷する場合があります。

FSB Termination Voltage [Auto]

FSBターミネーション電圧を選択します。

設定オプション: [Auto] [1.200V] [1.300V] [1.400V] [1.450V]

NB VCore [Auto]

ノースブリッジの電圧を選択します。

設定オプション: [Auto] [1.25V] [1.35V] [1.45V] [1.55V]

SB VCore [Auto]

サウスブリッジの電圧を選択します。

設定オプション: [Auto] [1.50V] [1.60V] [1.70V] [1.80V]

SATA, PCIE Voltage [Auto]

SATA と PCIE コントローラの電圧を選択します。

設定オプション: [Auto] [1.057V] [1.215V]



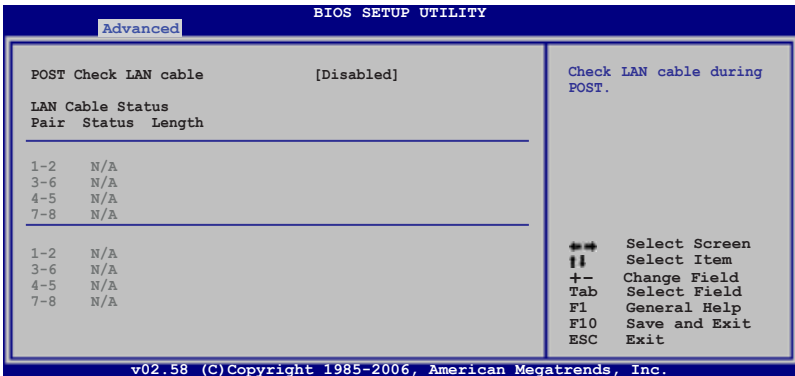
下の項目は AI Tuning の項目を [AI N.O.S.] に設定したときのみ表示されます。

N.O.S. Mode [Auto]

AI N.O.S. モードを選択します。

設定オプション: [Auto] [Standard] [Sensitive] [Heavy Load]

4.4.2 LAN Cable Status



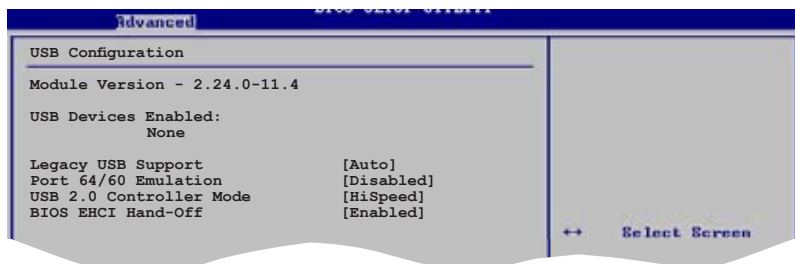
POST Check LAN Cable[Disabled]

POST 中に LAN ケーブルの状態をチェックする機能の設定を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.3 USB 設定

USB 関連機能の設定をします。項目を選択して<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



[Module Version]と[USB Devices Enabled]には、自動検出された値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

Legacy USB Support [Auto]

レガシーUSB デバイスの設定。[Auto]に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション:[Disabled] [Enabled] [Auto]

Port 64/60 Emulation [Disabled]

I/O ポート 60h/64h エミュレーションサポートを設定します。Non-USB OS での USB キーボードレガシーサポート用に [Enabled] に設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラの設定。HiSpeed (480 Mbps) または Full Speed (12 Mbps)。

設定オプション:[HiSpeed] [FullSpeed]

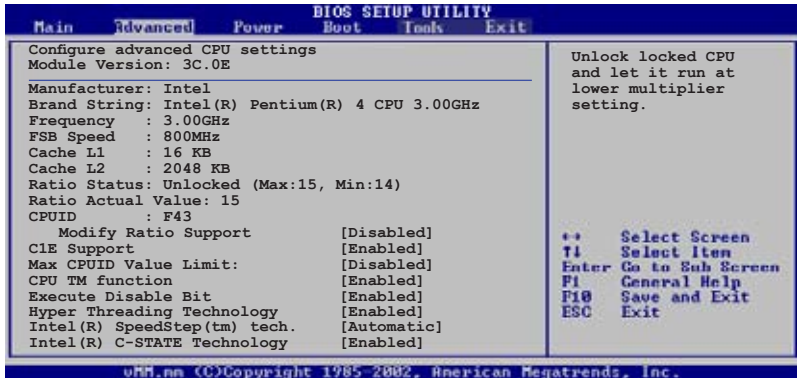
BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.4.4 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Modify Ratio Support [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

C1E Support [Enabled]

C1E サポートを設定します。C1E モードでは、CPU の電力消費はアイドル状態より低くなります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Max CPUID Value Limit [Disabled]

[Enabled] に設定すると、拡張 CPUID 機能非対応 CPU でもレガシーオペレーティングシステムを起動することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

CPU TM function [Enabled]

CPU 内部のサーマルコントロール機能を切り替えます。TM モードではCPUの電力消費が低くなります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Execute Disable Function [Enabled]

Execute Disable Function を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hyper-Threading Technology [Enabled]

Hyper-Threading Technology を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次の項目は、Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)対応の Intel® Pentium® 4以降のCPUを取り付けた場合のみ表示されます。

Intel(R) SpeedStep Technology [Automatic]

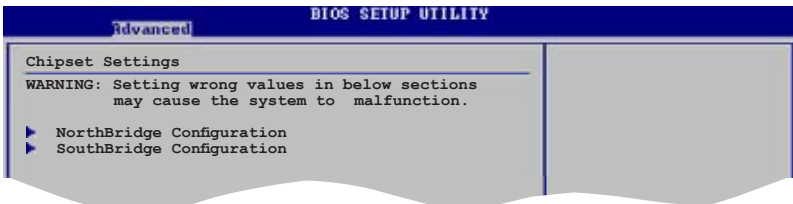
Enhanced Intel® SpeedStep® Technology に関する設定項目です。[Enabled]にするとOSのシステム電源設定を調節できます。利用しない場合は [Disabled] にします。
設定オプション: [Automatic] [Disabled]

Intel(R) C-STATE Technology [Enabled]

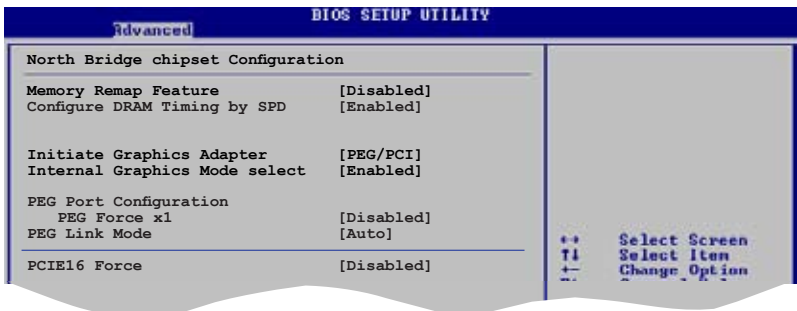
C-STATE 技術の切り替えです。
設定オプション: [Enabled] [Disabled]

4.4.5 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すとサブメニューを表示させることができます。



North Bridge Configuration



Memory Remap Feature [Disabled]

物理メモリ上の重複 PCI メモリのリマッピングを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Configure DRAM Timing by SPD [Enabled]

[Enabled]に設定すると、DRAM タイミングパラメータが DRAM SPD の値に従って設定されます。[Disabled]にすると、DRAM のサブメニューから、DRAM タイミングパラメータを手動で設定できます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

DRAM CAS# Latency [5]

DDR SDRAM の読み取り、または書き込みコマンドを発行してから、データを実際に読み書きできるようになるまでの待ち時間を設定します。

設定オプション: [3] [4] [5] [6]

DRAM RAS# to CAS# Delay [6 DRAM Clocks]

DDR SDRAM の RAS信号からCAS信号への切り換えに必要な待ち時間を設定します。

設定オプション: [2 DRAM Clocks] [3 DRAM Clocks] [4 DRAM Clocks]

[5 DRAM Clocks] [6 DRAM Clocks]

DRAM Write Recovery Time [6 DRAM Clocks]

設定オプション: [2 DRAM Clocks] [3 DRAM Clocks] [4 DRAM Clocks]

[5 DRAM Clocks] [6 DRAM Clocks]

DRAM TRFC [30 DRAM Clocks]

設定オプション: [20 DRAM Clocks] [25 DRAM Clocks] [30 DRAM Clocks]

[35 DRAM Clocks] [42 DRAM Clocks]

DRAM RAS# Precharge [6 DRAM Clocks]

プリチャージコマンドを DDR SDRAM に発行した後の待ち時間を設定します。

設定オプション: [2 DRAM Clocks] [3 DRAM Clocks] [4 DRAM Clocks]

[5 DRAM Clocks] [6 DRAM Clocks]

DRAM RAS# Activate to Precha [15 DRAM Clocks]

設定オプション: [4 DRAM Clocks] [5 DRAM Clocks]...[18 DRAM Clocks]

Initiate Graphic Adapter [PEG/PCI]

プライマリブートデバイスに設定するビデオコントローラを選択します。

設定オプション: [IGD] [PCI/IGD] [PCI/PEG] [PEG/IGD] [PEG/PCI]

Internal Graphic Mode Select [Enabled, 8MB]

内部グラフィックデバイスが使用するシステムメモリの値を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled, 1MB] [Enabled, 8MB]

PEG Force x1 [Disabled]

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

PEG Link Mode [Auto]

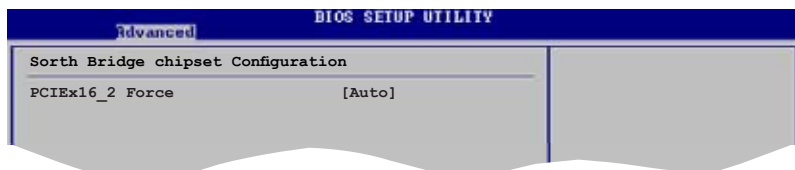
PCI Express グラフィックリンクモードを設定します。この項目を [Auto] にすると、マザーボードはシステム設定に基づき自動的に PCI Express グラフィックリンクモードを適切な周波数に調節します。

設定オプション: [Auto] [Slow] [Normal] [Fast] [Faster]

PEG16 Force [Disabled]

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

South Bridge Configuration



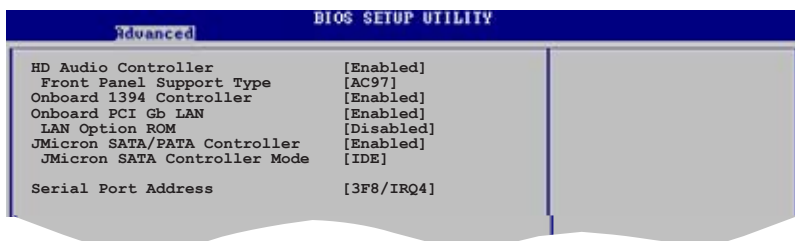
PCIEx16_2 Force [Auto]

PCIEx16_2Force 設定を手動で調節します。

設定オプション: [Auto] [x2 Mode] [x4 Mode]

PCIEx16_2Force を [x4 Mode] に設定すると PCIEx1_1 の項目は無効になります。

4.4.6 オンボードデバイス設定構成



HD Audio Controller [Enabled]

HDオーディオコントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Front Panel Support Type [AC97]

フロントパネルオーディオコネクタ(AAFP) モードを、フロントパネルオーディオモジュールのサポートする規格に従って、レガシー AC'97 または HD オーディオに設定します。

設定オプション: [AC97][HD Audio]

Onboard 1394 Controller [Enabled]

オンボード1394 デバイスサポートを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard PCI Gb LAN [Enabled]

オンボード PCI Gigabit LAN コントローラを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LAN Option ROM [Disabled]

オンボードLAN コントローラ内のブート ROM の設定です。この項目は「Onboard LAN」の項目が [Enabled] のときのみ表示されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

JMicron SATA/PATA Controller [Enabled]

JMicron SATA/PATA コントローラの設定をします。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



JMicron PATA コントローラを設定すると IDE モードになります。

JMicron SATA Controller Mode [IDE]

JMicron SATA コントローラのモード設定をします。この項目は JMicron SATA/PATA Controller の項目が [Enabled] の場合のみ表示されます。
設定オプション: [IDE] [AHCI] [RAID]

Serial Port Address [3F8/IRQ4]

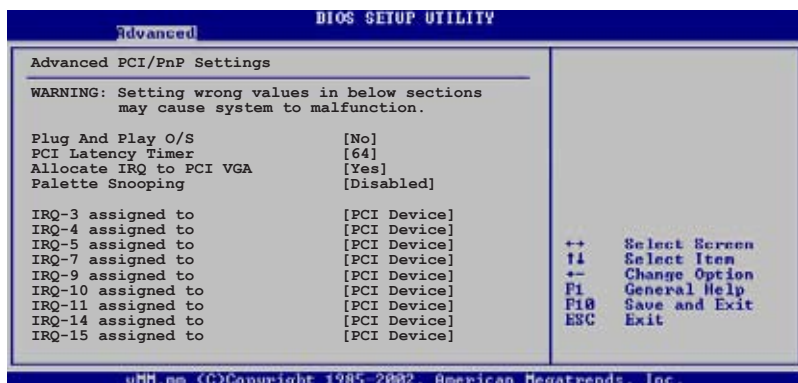
Serial Port ベースアドレスを選択します。
設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4][2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

4.4.7 PCI PnP

PCI PnP メニューでは、PCI/PnP デバイスのアドレスを変更できます。PCI/PnP またはレガシー ISA デバイス用の IRQ と DMA チャンネルリソースの設定、およびレガシー ISA デバイス用のメモリサイズブロックの設定を行います。



間違った値を設定するとシステムが誤動作する原因となります。PCI PnP メニューの設定を変更するときは注意して行ってください。



Plug and Play O/S [No]

[No]に設定すると、BIOS はマザーボードに接続されたデバイスの設定を自動的にを行います。[Yes] にし Plug and Play OS をインストールすると、OS が起動に不要な Plug and Play デバイスを設定します。

設定オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCI Latency Timer の値を選択します。

設定オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes]に設定すると、PCI スロット用のビデオカードが IRQ を要求した場合に、IRQ をビデオカードに割り当てます。[No]に設定すると、BIOS はたとえ要求されても IRQ をビデオカードに割り当てません。

設定オプション: [No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

この項目を[Enabled]に設定すると、ISAビデオカードにカラーパレットが割り当てられます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ-xx assigned to [PCI Device]

この項目を[PCI Device]に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスを自由に使用します。[Reserved]に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス専用になります。

設定オプション: [PCI Device] [Reserved]

4.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



4.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。

設定オプション: [S1 Only] [S3 Only] [Auto]

4.5.2 Repost Video on S3 Resume [Disabled]

S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.3 ACPI 2.0 Support [Disabled]

ACPI 2.0 仕様への対応を追加できます。

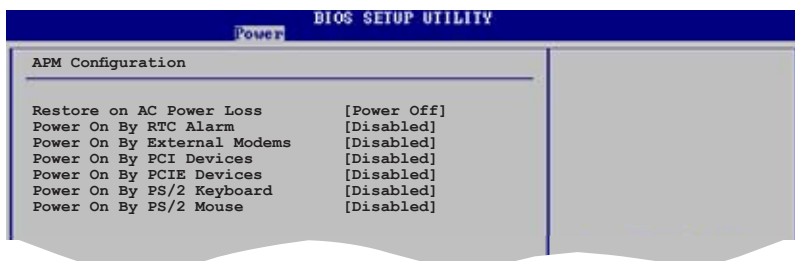
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC がACPI をサポートするかを設定します。[Enabled]にすると、ACPI APIC の表のポインターが RSDT ポインターリストに含まれます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.5 APM の設定



Restore on AC Power Loss [Power Off]

この項目を[Power Off]に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On]に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State]に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

指定した時刻に電源をオンにすることができます。[Enabled]にすると、RTC Alarm Date、RTC Alarm Hour、RTC Alarm Minute、RTC Alarm Second の各項目が表示されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modems [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定をします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に動作しないと、データの送受信はできません。従って最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCI LAN またはモデムカードを使用してシステムの電源をオンにします。+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PCIE Devices [Disabled]

PCI Express デバイスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PS/2 マウスを使用してシステムの電源をオンにします。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.6 ハードウェアモニタ



CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

マザーボードとCPU 温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、[Ignored] を選択してください。

CPU Fan Speed (RPM) [xxxxRPM] or [N/A] or [Ignored]

CPU ファンの回転数を自動的に検出し、回転数/分(RPM)の単位で表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合は、N/A と表示されます。検出を無効に設定する場合は、[Ignored] を選択してください。

Chassis Fan1/Fan2/Fan3 Speed [xxxxRPM] or [N/A] or [Ignored]

ケースファンの回転数を自動的に検出し、回転数/分(RPM)の単位で表示します。ファンがマザーボードに接続されていない場合は、N/A と表示されます。検出を無効に設定する場合は、[Ignored] を選択してください。

Power Fan Speed (RPM) [xxxxRPM] or [N/A] or [Ignored]

自動的に電源ファンの回転数を検出して表示します(単位:RPM)。ファンが電源ファンコネクタに接続されていないと、N/Aと表示されます。設定を無効にする場合は、[Ignore] を選択してください。

VCORE Voltage, 3.3V Voltage, 5V Voltage, 12V Voltage

VCORE の電圧を自動的に検出して表示します。

Fan Profile [Optimal]

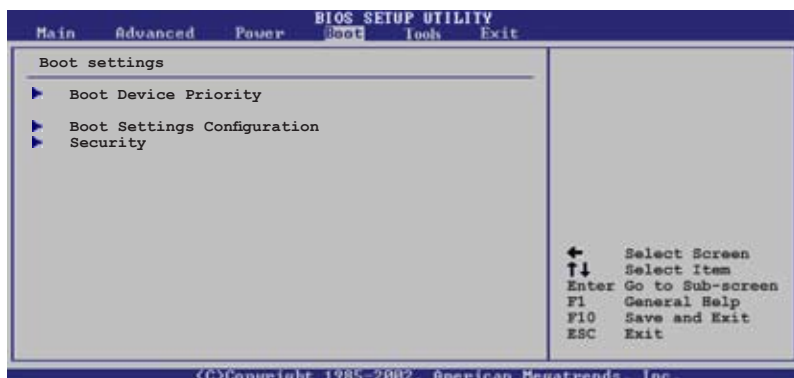
ASUS Advanced Q-Fan 機能でのCPU ファンのプロファイルを選択します。
設定オプション: [Disabled] [Performance] [Optimal] [Silent] [Ultra Silent]



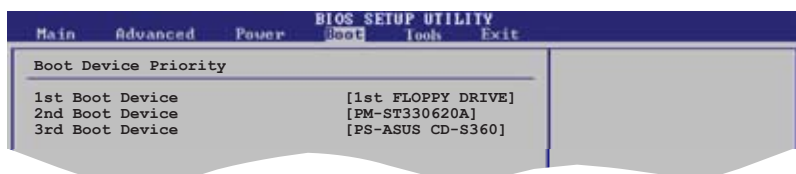
スピードを極度に低くすると、ハードウェアのモニタエラーメッセージが表示されることがあります。

4.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



4.6.1 ブートデバイスの優先順位

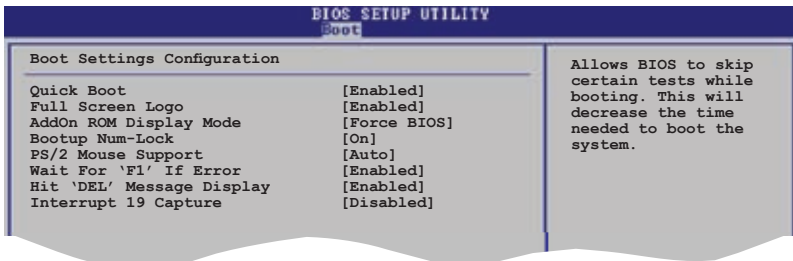


1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数はブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.2 ブート設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



この項目は[Enabled] に設定し、是非ASUS MyLogo2™ 機能をご利用ください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。

設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。

設定オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2 マウスをサポートするかどうかを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、システムはエラー発生時に F1 キーが押されるのを待機します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。

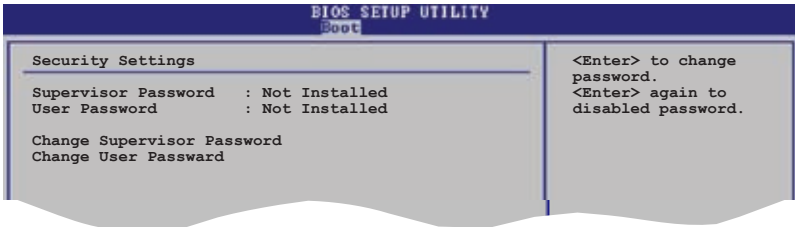
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

この項目を[Enabled] に設定すると、Interrupt 19 をイベント通知することができます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「Supervisor Password」は、デフォルトの状態では Not Installed になっています。パスワードを設定すると、Installed に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

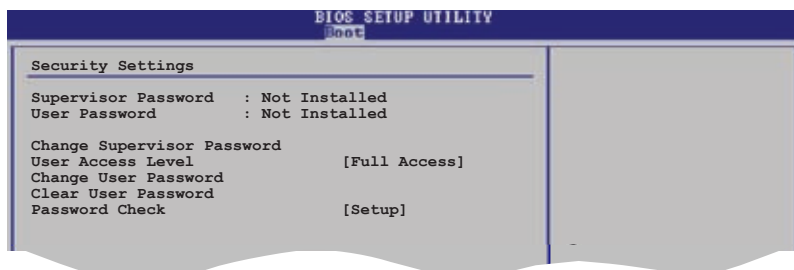
管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「Change Supervisor Password」を選択し、<Enter>を押します。消去すると「Password Uninstalled」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、「2.6 ジャンプ」のページをご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更できます。

[Full Access]、すべての項目の表示、変更ができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」はデフォルトの状態では Not Installed になっています。パスワードを設定すると、Installed に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

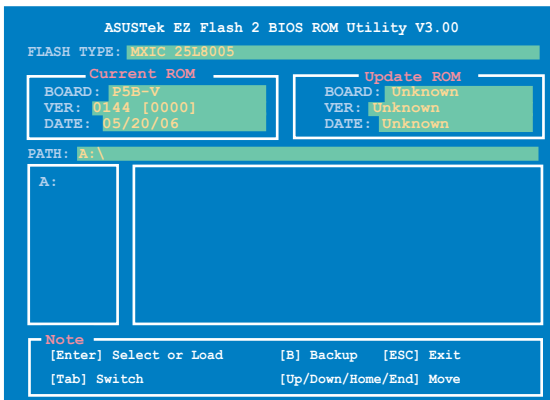
この項目を[Setup]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always]に設定すると、BIOSはBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。
設定オプション:[Setup] [Always]

4.7 ツールメニュー



4.7.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [OK] または [Cancel] を選択し、<Enter> を押して選択を決定します。詳細はページ 4-2のセクション 4.1.2をご覧ください。



4.7.2 ASUS Music Alarm



ASUS Music Alarm [Disabled]

ASUS Music Alarm を設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



下の項目は ASUS Music Alarm を [Enabled] に設定するとユーザー設定可能になります。

Alarm Day: Sunday/Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/ Saturday [Enabled]

特定日用のアラーム設定をします。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Alarm Time (hh:mm) 0 : 0

アラーム時間を設定します。<Tab> を押してフィールドを選択し、<+> <-> を使って値を変更してください。

Audio CD Device [Primary IDE Slave]

アラーム用音楽を再生する光学記憶装置の接続を設定します。
設定オプション: [Primary IDE Master] [Primary IDE Slave]

Detect CD

<Enter> を押して CD のトラックナンバーを検索します。

Starting Track

アラーム用音楽の再生を開始するトラックを選択します。

Repeat Track [None]

トラックをリピートする設定をします。
設定オプション: [None] [Single] [All]

Duration [10 Mins]

アラームの再生する長さを設定します。
設定オプション: [10 Mins] [20 Mins] [30 Mins] [1 Hour]

Volume [16]

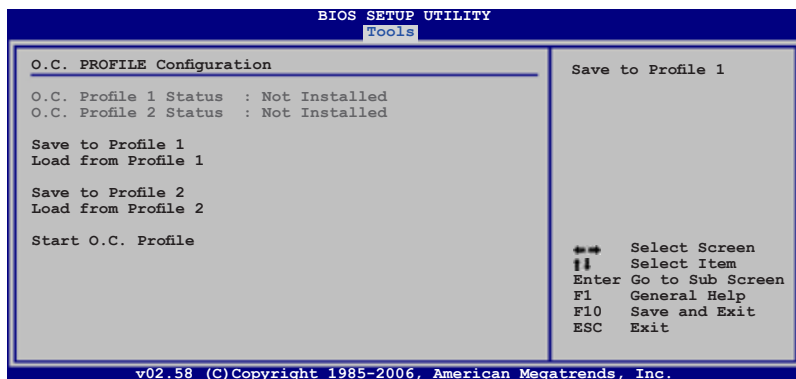
アラームの音量を設定します。
設定オプション: [01] ~ [32]



-
- サウスブリッジの IDE ATAPI デバイスのみがこの機能をサポートします。
 - スタンバイ用の電源が必要です。コンピュータを電源に接続してください。
 - ASUS Music Alarm Utility を使用することで OS でもアラーム時間を設定することが可能です。(詳細 5.3.6 参照)
 - ASUS Music Alarm はオーディオ CD のみのサポートです。
-

4.7.3 ASUS O.C. Profile

複数の BIOS 設定を保存・ロードすることができます。



Save to Profile 1/2

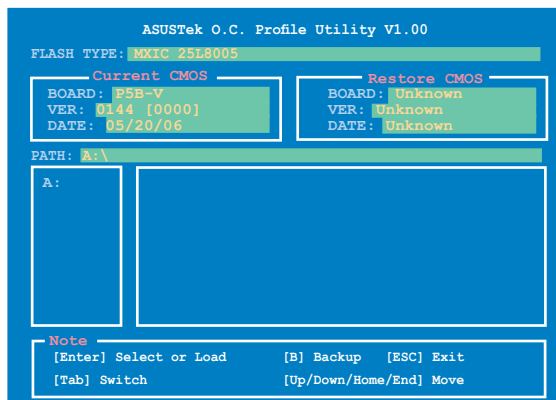
BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。

Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存した BIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロードしてください。

Start O.C. Profile

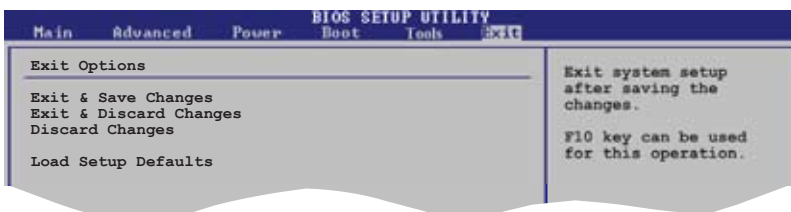
ユーティリティを起動して CMOS を保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動します。



- USB フラッシュディスクやフロッピーディスクなどのデバイスを FAT 32/16 フォーマットでのみサポートします。
- BIOS の更新中はシステムをシャットダウンしたり、リセットしたりしないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、デフォルト値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。このメニューから終了する項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOSの設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定をCMOS RAMに保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでもBIOSの設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに<ESC>でBIOSメニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は<Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「OK 0」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、デフォルト値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「OK」を選択してデフォルト値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

サポートCDのコンテンツ

5 ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポート CD 情報	5-1
5.3	ソフトウェア情報.....	5-8
5.4	RAID	5-31
5.5	RAID /SATAドライバディスクを作成する.....	5-40

5.1 OSをインストールする

このマザーボードはWindows® 2000/XP/64-bit XP OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 Service Pack 4 または Windows® XP Service Pack 2以降の Service Pack をインストールしてください。

5.2 サポートCD情報

マザーボードに付属するサポートCDには、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが入っています。



サポートCDの内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS webサイト (www.asus.co.jp) でご確認ください。

5.2.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポートCDとマザーボードの情報を表示できます。

クリックしてインストールします。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDの BINフォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

5.2.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll-Drivers Installation Wizard

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

Intel Chipset Inf Update Program

Intel® チップセット Inf アップデートプログラムをインストールします。

SoundMAX ADI1988 Audio Driver

SoundMAX® ADI1988 オーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

Marvell 88E8001 LAN Driver

Marvell® 88E8001 LAN ドライバとアプリケーションをインストールします。

JMicron JMB36X RAID Controller Driver

JMicron® JMB36X Serial ATA RAID コントローラドライバをインストールします。

USB 2.0 Driver

USB 2.0 ドライバをインストールをします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS InstAll-Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

ASUS AI Suite

ASUS AI Suite をインストールします。

ASUS Update

Windows®環境で BIOS のアップデートが行えます。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。

ASUS PC Probe II

ファン速度、CPU 温度、システム電圧をモニタし、何か問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えば、コンピュータを常に正常な状態に維持できます。

ASUS Music Alarm

PC アラームを設定をします。

Anti-Virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご覧ください。

ADOBE Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができる Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0 ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0 は、コンピュータのグラフィックとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。アップデートはMicrosoft Webサイト (www.microsoft.co.jp)で。

5.2.4 Make Disk menu

JMicron® JMB363 SATA/PATA RAID ドライバディスクを作成します。



Make JMicron JMB36X 32bit RAID Driver

JMicron® JMB36X 32bit RAID ドライバを作成します。

Make JMicron JMB36X 64bit RAID Driver

JMicron® JMB36X 64bit RAID ドライバを作成します。

5.2.5 マニュアルメニュー

サードパーティ製のコンポーネント、または各アプリケーションのユーザーマニュアルを見ることができます。



ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDFファイルを見るには、UtilitiesタブのAdobe® Acrobat® Reader V7.0をインストールしてください。



5.2.6 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーション。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。



5.2.7 その他の情報

画面右上のアイコン。マザーボード、サポートCDの内容に関する追加情報です。

マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示。



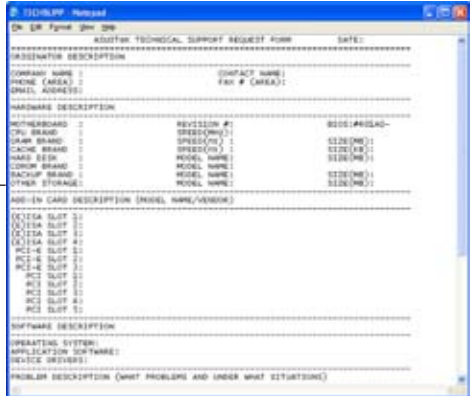
CDをブラウズする

サポートCDのコンテンツを表示。(グラフィカル形式)



テクニカルサポートフォーム

Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。



ファイルリスト

サポート CD のコンテンツを表示。(テキスト形式)



5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのほとんどのアプリケーションはウィザードを使って簡単にインストールをすることができます。詳細はオンラインヘルプまたはアプリケーションのReadme ファイルをご参照ください。

5.3.1 ASUS MyLogo2™

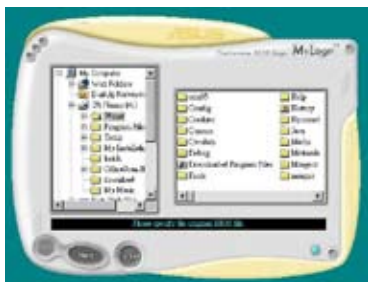
ASUS MyLogo2™ で起動ロゴを設定することができます。起動ロゴとは起動時の自己診断テスト (POST) の間に、表示される画像のことです。サポート CD から ASUS Update ユーティリティをインストールすると自動的にASUS MyLogo2™ もインストールされます。(詳細 5.2.3「ユーティリティメニュー」参照)



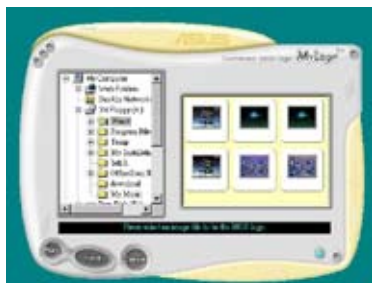
- ASUS MyLogo2™で利用になる前にAFUDOS ユーティリティを使ってオリジナルBIOSファイルのコピーを作成するか、ASUS Webサイトから最新バージョンのBIOSを入手してください。(詳細 4.1.3「AFUDOS」参照)
- ASUS MyLogo2™をご利用になる場合は、BIOS の「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] にしてください。(詳細 4.6.2「ブート設定」参照)
- オリジナルのブートロゴは GIF、JPG、BMP フォーマットで作成できます。

ASUS MyLogo2™を起動する

1. ASUS Update ユーティリティを起動します。(詳細 4.1.5 「ASUS Update 」)
2. ドロップダウンメニューから「Options」を選択し、「Next」をクリックします。
3. BIOSを更新する前に起動ロゴを置き換えるために、「Launch MyLogo」をチェックして「Next」をクリックします。
4. ドロップダウンメニューから「Update BIOS」を選択し、「Next」をクリックします。
5. 指示に従って新しいBIOS ファイルを検索し「Next」をクリックすると、ASUS MyLogo 2 のウィンドウが表示されます。
6. 左ウィンドウ枠から、起動ロゴとして使用する、画像を含むフォルダを選択します。



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio box の値を選択し、画像のサイズを調整します。



9. 画面が ASUS 更新ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

5.3.2 AI NET2

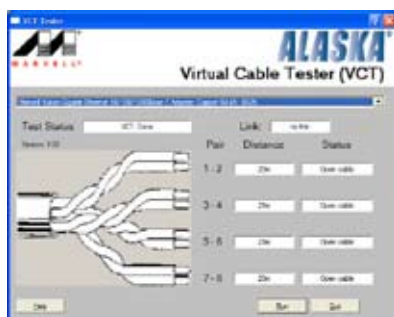
AI NET2はMarvell® Virtual Cable Tester™ (VCT) を採用し、TDR (Time Domain Reflectometry) テクノロジーでLANケーブル障害とショートを報告します。VCTは、外れていたりショートしているケーブル、インピーダンス不一致、ペア交換、ペア極性問題、ペアスキュー問題を1メートルの精度で最大64 ns まで検出し報告します。

VCT機能は、きわめて管理が簡単で制御されたネットワークシステムを通じて、ネットワークワーキングとサポートコストを抑えています。このユーティリティはネットワークシステムソフトウェアに組み込まれ、開発診断だけでなく理想的なフィールドサポートも実現しています。

Virtual Cable Tester™ を使う

手順

1. スタート → すべてのプログラム → Marvell → Virtual Cable Tester の順にクリックして、Windows® デスクトップから VCT を起動します。
2. メニューの「Virtual Cable Tester」をクリックして、下の画面を表示させます。



3. 「Run」ボタンをクリックして、ケーブルテストを実行します。



- VCTは、Windows® XP もしくは Windows® 2000 OSでのみ実行可能です。
- VCT は、Gigabit LAN ポートに接続したイーサネットケーブルのみテストします。
- LAN ケーブルに問題が検出されない場合は、Virtual Cable Tester™メインウィンドウの「Run」ボタンは、無効です。
- OSに入る前に、システムでLANケーブルの状態をチェックしたい場合は、BIOSの「Post Check LAN Cable」の項目を[Enabled]にします。

5.3.3 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントをモニタし、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度システム電圧を中心にモニタします。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時からモニタを監視します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポートCDを光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDの ASUS PC Probe IIフォルダから setup.exe を探してください。setup.exe をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. Utilities タブ→ ASUS PC Probe II の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでもPC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる: スタート → すべてのプログラム → ASUS → PC Probe II → PC Probe II v1.xx.xx の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを開いたり閉じたりすることができます。

PC Probe II を使う

メインウィンドウ

PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。デフォルトでは Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。



三角をクリックして
Preference を閉じる

ボタン	機能
	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニタパネルも赤色になります。モニタパネル参照。

Preferences

メイン画面の Preference で使用中のアプリケーションをカスタマイズできます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニタパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニタパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6 角形 (大)と長方形 (小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニタパネルがデスクトップに表示されます。



六角形(大)



長方形(小)

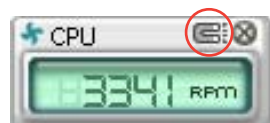
モニタパネルの位置を変える

モニタパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニタパネルを分解する

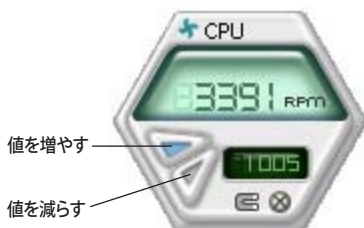
モニタパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形(小)のモニタパネルでは基準値を調節することはできません。



警告センサーモニタ

コンポーネントの値が基準値を上回ったり、下回ったりすると赤色になります。



六角形(大)



長方形(小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な、Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

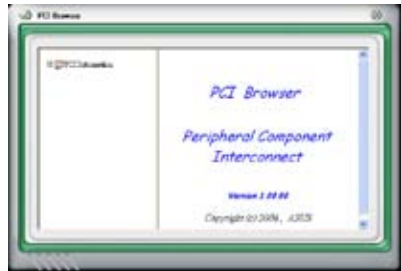
DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**USAGE** をクリックして Usage を開きます。

CPU

リアルタイムのCPU 使用率が線グラフで表示されます。CPU のHyper-Threading機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



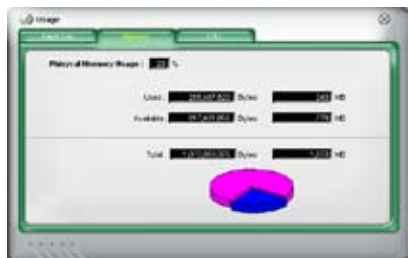
Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



Memory

物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基本値を確認・調節します。

Config には 2 つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基本値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



デフォルト基本値をロード

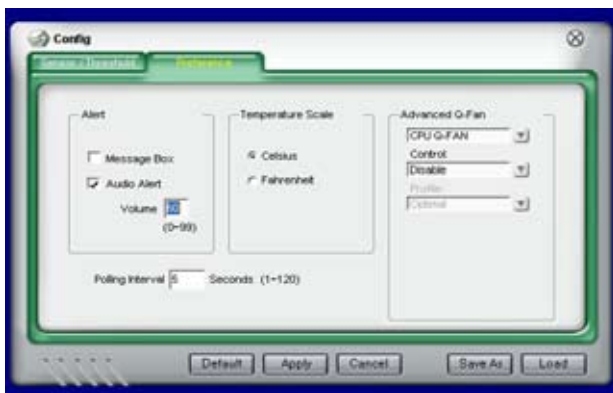
変更を適用

変更をキャンセル

保存した設定をロード

設定を保存

PC Probe II で ASUS Advanced Q-Fan 機能を設定する際は下の図を参考にしてください。



5.3.5 ASUS Music Alarm

ASUS Music Alarm はオーディオアラームクロックです。システムがオフの状態でお気に入りの音楽でのウェイクアップ音をお楽しみいただけます。この機能をサポートするオーディオ CODEC には、光学ドライブ (CD-ROM、CD-RW、DVD-ROM)が必要です。



-
- スタンバイ電源用に電源コードは電源に接続してください。
 - ASUS Music Alarm はオーディオ CD のみをサポートします。
 - 拡張サウンドカードが取り付けられている場合、ASUS Music Alarm を起動させることはできません。
 - サウスブリッジの IDE ATAPI デバイスのみがこの機能をサポートします。
-

ハードウェアセットアップ

手順

1. アナログオーディオケーブルで光学ドライブとマザーボード上の CD の印がある 4 ピン CD コネクタに接続します。(詳細 2.7.2 「内部コネクタ」参照)
2. オーディオ出力用に、スピーカーまたはヘッドホンをフロントまたはリアパネルのライン出力 (ライム) ポートに接続します。スピーカーやヘッドホンは光学ドライブの出力ジャックに接続することもできます。
3. BIOS、Windows[®]での設定を各項目を参照し行ってください。

BIOS 設定

BIOS で ASUS Music Alarm をオンにする


1. システムの電源をオンにします。
2. POST 中に を押し BIOS セットアップに入ります。
3. Tools メニューで ASUS Music Alarm を選択します。
4. ASUS Music Alarm の項目を [Enabled] に設定します。(詳細 4.7.1 「ASUS Music Alarm」参照)

OS 設定


Windows® で ASUS Music Alarm を設定する

1. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
2. Utilities タブをクリックし ASUS Music Alarm を選択しインストールしてください。
3. オーディオ CD を光学ドライブに挿入します。
4. スタート → ASUS → ASUS Music Alarm の順に進み、ASUS Music Alarm を起動させると、メインウィンドウが表示されます。



5. Time for Next Alarm の横にある  をクリックすると、Alarm Time Setting パネルが表示されます。アラームの日付と時間を設定、またはアラームをオフにします。設定が終了したら OK をクリックします。



6. Music の横にある  をクリックすると、Music Selection パネルが表示されます。デバイスを選択し、音楽を開始する CD のトラックナンバーを選択します。設定が終了したら OK をクリックします。



7. Options の横にある (D) をクリックすると、オプションパネルが表示されます。Disable (無効) またはリピートモードを選択し、アラームの再生時間と音量を設定してください。
設定が終了したら OK をクリックします。



8. 全ての設定が終了したら、システムを終了します。

音量を調節する

アラームを再生中に音量を調節する

- 上下矢印キーを使用して音量を調節します。

アラームを切る

手順

- 任意のキーを押すと CD が停止しシステムが終了されます。



-
- アラームの再生中は、システムウェイクアップ機能 (LAN、キーボード、マウス PCI/PCIE デバイス、モデム) はオフになります。
 - システムが接続を失ったり、光学ドライブやオーディオ CD が検出されなかったりすると、ASUS Music Alarm は自動的に無効/オフになります。
 - アラームの再生中は、光学ドライブフロントパネル機能は無効になります。
 - ASUS Music Alarm はシステムがオフの状態でのみ起動します。
-

5.3.4 ASUS AI Suite

AI Gear、AI N.O.S.、AI Booster、AI Nap、Advanced Q-Fan を簡単に起動させます。

AI Suite をインストールする 手順

1. Autorun 機能が有効に設定されている場合は、サポート CD を光学ドライブにセットすると Drivers インストールタブが表示されます。
2. Utilities タブ → AI Suite の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。

AI Suite を起動する

AI Suite をインストールしたらいつでも起動可能です。

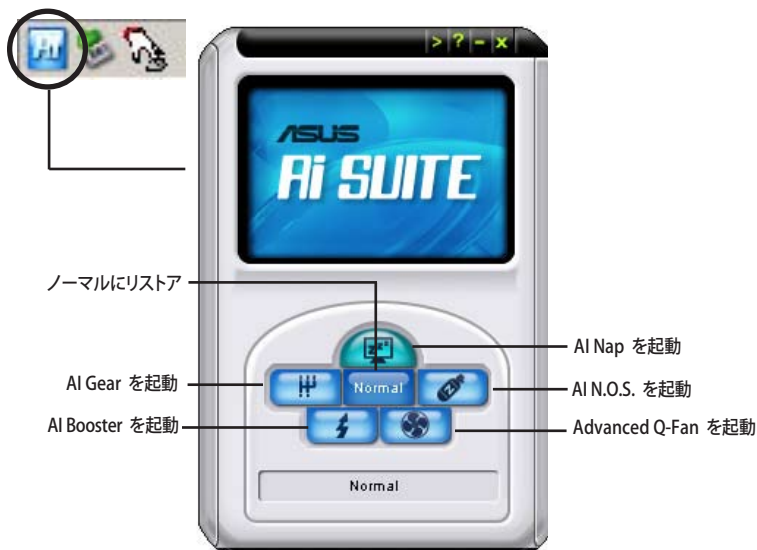
Windows® デスクトップから AI Suite を起動する方法。

スタート → すべてのプログラム → ASUS → AI Suite → AI Suite v1.xx.xx の順にクリックすると AI Suite のメインウィンドウが表示されます。


アプリケーションを起動したら、AI Suite アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。このアイコンをクリックしてアプリケーションを閉じたりリストアしたりします。

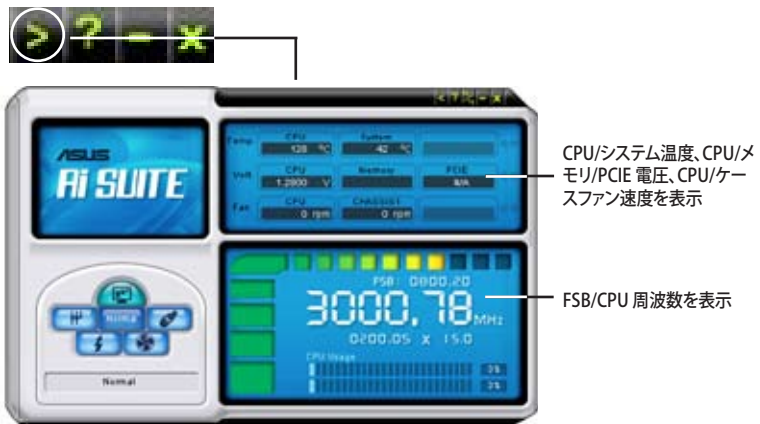
AI Suite を使う

AI N.O.S.、AI Gear、AI Nap、AI Booster、Advanced Q-Fan アイコンをクリック、ユーティリティを起動します。ノーマルアイコンをクリックするとシステムがノーマル状態にリストアされます。



その他のボタン

メインウィンドウの右端にある  をクリックしてモニタウィンドウを開きます。



右上の  をクリックして摂氏と華氏を切り換えます。

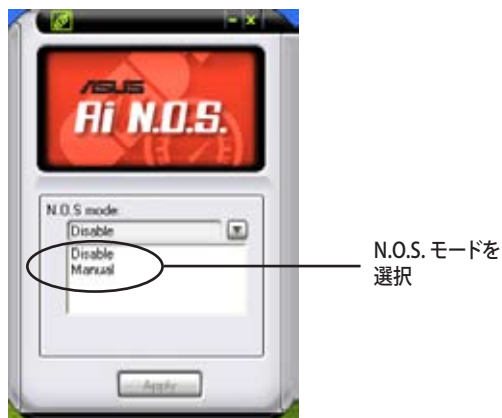


5.3.6 ASUS Ai N.O.S.

ASUS Non-delay Overclocking System 機能はシステムの負荷を判断し自動的にパフォーマンスを引き上げます。

付属のサポート CD から Ai Suite をインストールしたら、Windows OS タスクバーの Ai Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で Ai N.O.S. ボタンをクリックして起動します。

ドロップダウンメニューボタンをクリックし、Disable または Manual を選択します。



Apply をクリックして設定を保存します。

5.3.7 ASUS AI Gear

ASUS AI Gear の 4 つのパフォーマンスオプションからコンピューティングの必要に応じてパフォーマンス設定を選択することができます。このユーティリティで簡単にプロセッサ周波数、VCore 電圧を調整し、システムノイズや電源消費を最小限に抑えることができます。

付属のサポート CD から AI Gear をインストールすれば、Windows OS のタスクバーにある AI Gear アイコンをダブルクリックするだけで起動することができます。

ギアを入れてパフォーマンス設定を選択します。

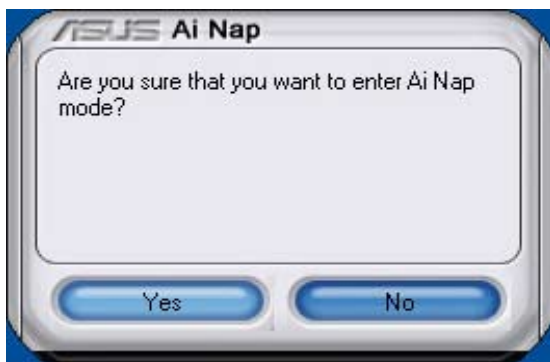


5.3.8 ASUS Ai Nap

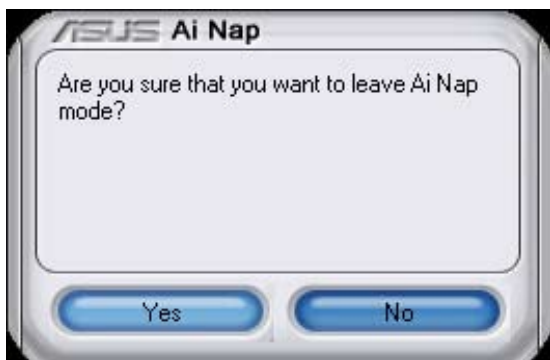
コンピュータを使用していない時の電源消費を最小限に抑えます。

付属のサポート CD から AI Nap をインストールすれば、Windows OS のタスクバーの AI Nap アイコンをダブルクリックするだけで起動することができます。

確認画面で Yes をクリックしてください。



システム電源またはマウスボタンを押し、確認画面で Yes をクリックして AI Nap モードから退出します。



5.3.9 ASUS Advanced Q-Fan

ASUS Advanced Q-Fan 機能では、CPU ファンとケースファンのパフォーマンスを適切なレベルに設定できます。Advanced Q-Fan 機能を有効にすると各ファンは温度に応じて自動的に減速・加速します。

付属のサポートCDから AI Suite をインストールした後、Windows® OS のタスクバーにある AI Suite のアイコンをダブルクリックしてこのユーティリティを起動します。次にメイン画面にある Advanced Q-Fan ボタンを押してください。

Profile リストが表示されますので、ドロップダウンメニューをクリックし、選択肢からモードを1つ選択します。「Optimal」モードは温度に応じてファンスピードを調節します。「Silent」モードと「Ultra Silent」モードはファンスピードを下げ動作音を抑えます。「Performance」モードではファン速度は最速になります。



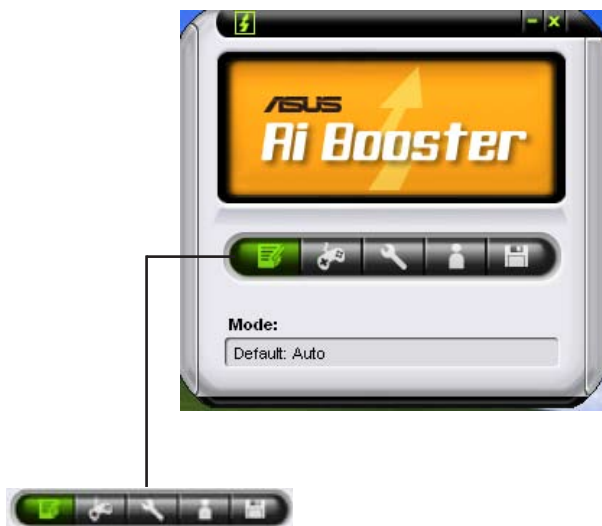
ドロップダウンメニューでモードを選択します。

「Apply」ボタンをクリックし設定を保存します。

5.3.10 ASUS Ai Booster

ASUS Ai Booster は CPU 速度を Windows® 環境でオーバークロックします。

付属のサポート CD から Ai Suite をインストールしたら、Windows OS タスクバーの Ai Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で Ai Booster ボタンをクリックし起動します。



タスクバーのオプションでからデフォルトを適用したり、CPU/メモリ/PCI-E 周波数を手動で調節したり、またはオーバークロック設定を作成し適用させたりすることができます。

5.3.11 SoundMAX® High Definition Audio

ADI AD1988A High Definition Audio CODEC は、AudioESP™ ソフトウェア採用の SoundMAX® オーディオを通して 8 チャンネルオーディオを提供し、PCで最高のオーディオをお楽しみいただけます。このソフトウェアは、高品質なオーディオ合成/レンダリング、3D サウンドポジショニング、拡張音声入力技術を採用しています。

インストールウィザードに従って、サポートCDから ADI AD1988A Audio Driver をインストールし、SoundMAX® をご利用ください。



- セットアップには4チャンネル、または 6チャンネル、8チャンネルスピーカが必要です。
- SoundMAX® をインストールする前に Microsoft® Windows® 2000/XPをインストールしてください。
- Jack Retasking 機能は High Definitionフロントパネルオーディオポートでのみ動作可能です。

SoundMAX® をインストールするとタスクバーに SoundMAX® アイコンが表示されます。



タスクバーの SoundMAX® アイコンをダブルクリックして、SoundMAX® コントロールパネルを表示させます。



Audio Setup Wizard

SoundMAX® コントロールパネルの  アイコンをクリックすると、簡単にオーディオ設定が行えます。画面の指示に従ってHDオーディオをお楽しみください。



Jack configuration

コンピュータのオーディオポートを設定します。画面は設定したオーディオデバイスによって異なります。



Adjust speaker volume

スピーカの音量調整をします。**Test** ボタンをクリックし、実際に音を聞いて確認します。



Adjust microphone volume

マイクのボリュームを調節します。文を読むように指示が出ます。声に合わせて AudioWizard がボリュームを調節します。



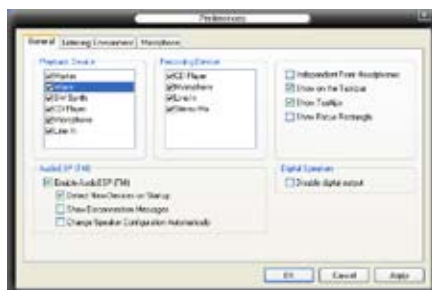
Audio preferences



アイコンをクリックすると Preferences 画面へ移動します。この画面では様々なオーディオ設定の変更が可能です。

General options

General タブをクリックして、プレイバックレコーディングデバイスを選択し、AudioESP™ 機能、デジタル出力の設定を切り替えます。



Microphone options

Listening Environment タブをクリックし、マイク入力設定を最適化します。



5.4 RAID

本製品は、JMicron® JMB363 RAID コントローラを搭載しており、Serial ATA HDDで、以下のRAID 設定が可能です。

RAID 0 (データストライピング) : 2台の同じHDDを最適化し、パラレル方式でデータを交互に読み書きします。2台のハードディスクの役割は、シングルドライブと同じですが、転送率はシングルディスクの2倍を実現し、データアクセスと保存を向上させます。セットアップには、新しい2台の同じHDDが必要です。

RAID 1 (データミラーリング) : 1台目のドライブから、2台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが1台破損しても、ディスクアレイマネジメントソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、2台の新しいHDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

JBOD (スパニング) : Just a Bunch of Disks の略で、RAID として設定されていない HDD を使います。複数台の HDD を、仮想的に 1 台の HDD かのように入ります。スパニングは複数の HDD を使用することで得られる、フォールトトレランスや他の RAID 機能の利点はありません。



RAID 設定された HDD からシステムをブートする場合は、OS をインストールする前にサポート CD からフロッピーディスクに RAID ドライバをコピーします。(詳細 5.5 「RAID / SATA ドライブディスクの作成」参照)

5.4.1 Serial ATA ハードディスクを取り付ける

本製品は、Serial ATA HDD をサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じ HDD をご使用ください。

RAID 用に SATA ハードディスクを取り付ける

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA シグナルケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。

5.4.2 JMicron® RAID

JMicron® Serial ATA コントローラは、外付け Serial ATA HDD に RAID 0、RAID 1、JBOD を作成することができます。

RAID を作成する前に

以下の項目を準備してください

1. HDD 2台 (同モデル、同容量のものを推奨)
2. 空のフロッピーディスク
3. Microsoft® Windows® OSインストールディスク (Windows 2000/XP)
4. JMB363 ドライバの入ったサポート CD

RAID を作成する前に以下の作業を行ってください。

1. 外付け Serial ATA HDD を取り付けてください。
2. BIOS で「JMicron SATA Controller Mode」の項目を [RAID] に設定してください。
(詳細「4.4.6 オンボードデバイス設定構成」参照)



3. JMB363 RAID BIOS ユーティリティで RAID 設定を行います。
4. Windows® OS インストール用に JMB363 RAID ドライバディスクを作成します。
(詳細 5.5 「RAID/SATA ドライバディスクを作成する」参照)
5. Windows® OS をインストールした後に、JMB363 ドライバをインストールします。



RAIDセットのドライブを全てデータドライブとして使用している場合でも、RAID 構築の際は必ず JMB 363 ドライバをロードしてください。

JMB363 RAID BIOS に入る

1. POST 中に、<Ctrl-J> を押して JMB363 RAID BIOS メニューに入ります。

```
JMicron Technology Corp. PCI-to-SATA II/IDE RAID Controller BIOS v0.97
Copyright (C) 2004-2005 JMicron Technology          http://www. jmicron.com

HDD0 : HDS722516VLSA80                               164 GB Non-RAID
HDD1 : HDS722516DLA380                               164 GB Non-RAID

Press <Ctrl-J> to enter RAID Setup Utility...
```

2. JMB363 RAID BIOS メインメニューが表示されます。
3. 矢印キーを使って項目間を移動します。

```
JMicron Technology Corp. PCI-to-SATA II/IDE RAID Controller BIOS v0.97

[Main Menu]
Create RAID Disk Drive
Delete RAID Disk Drive
Revert HDD to Non-RAID
Solve Mirror Conflict
Rebuild Mirror Drive
Save and Exit Setup
Exit Without Saving

[Hard Disk Drive List]
Model Name      Capacity  Type/Status
HDD0:  HDS722516VLSA80  164 GB   Non-RAID
HDD1:  HDS722516DLA380  164 GB   Non-RAID

[RAID Disk Drive List]

[←→ TAB]-Switch Window  [↑↓]-Select Item      [ENTER]-Action  [ESC]-Exit
```

RAID を作成する

1. JMB363 RAID BIOS メインメニューで上下矢印キーを使って「Create RAID Disk Drive」をハイライト表示させ <Enter> を押します。

```
[Main Menu]
Create RAID Disk Drive
Delete RAID Disk Drive
Revert HDD to Non-RAID
Solve Mirror Conflict
Rebuild Mirror Drive
Save and Exit Setup
Exit Without Saving
```

- Level の項目をハイライト表示させたら、上下矢印キーを使って作成する RAID を選択します。

```
[Create New RAID]
Name : JRAID
Level: 0-Stripe
Disks: Select Disk
Block: 128 KB
Size : 319 GB

Confirm Creation
```

```
[Create New RAID]
Name : JRAID
Level: 1-Mirror
Disks: Select Disk
Block: N/A
Size : 159 GB

Confirm Creation
```

- Disks の項目をハイライト表示させたら、上下矢印キーを使って RAID に使用する HDD を選択し、スペースで確定します。この作業を繰り返して HDD を全て選択します。

選択した HDD の前には ▶ が表示されます。

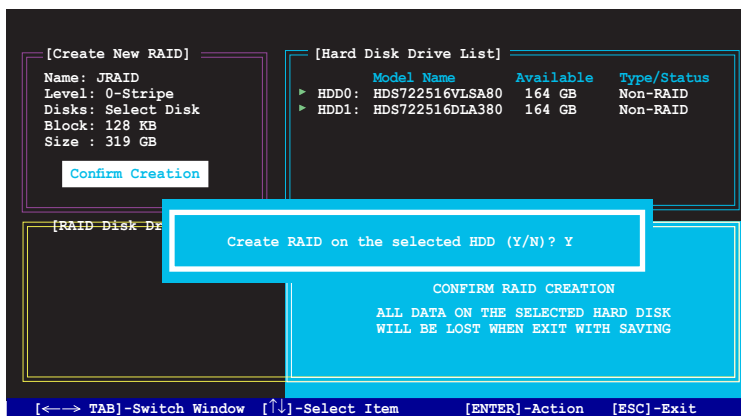
```
[Hard Disk Drive List]
Model Name          Capacity  Type/Status
▶ HDD0:  HDS722516VLSA80  XXX GB   Non-RAID
▶ HDD1:  HDS722516DLA380  XXX GB   Non-RAID
```

- RAID 容量を入力します。上下矢印キーを使ってブロックサイズを選択します。デフォルト値は最大容量です。

```
[Create New RAID]
Name : JRAID
Level: 0-Stripe
Disks: Select Disk
Block: 128 KB
Size : 319 GB

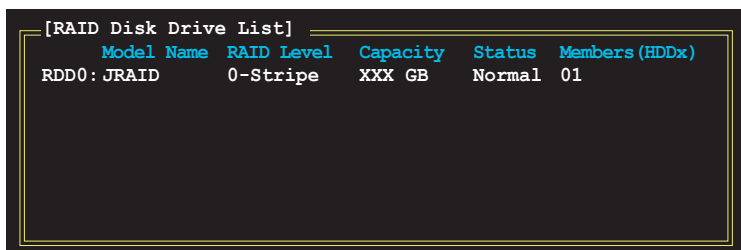
Confirm Creation
```

5. 終了したら、<Enter> を押し RAID 設定を確定すると、ダイアログボックスが表示されます。<Y> で確定します。



<Y> を押すと HDD 内の全てのデータは失われます。

6. 作成した RAID 設定を表示する下の画面が表示されます。



RAID を削除する

1. メイン JMB363 RAID BIOS メニューで 上下矢印キーを使って、Delete RAID Disk Drive をハイライト表示させ <Enter> を押します。

```
[Main Menu]
Create RAID Disk Drive
Delete RAID Disk Drive
Revert HDD to Non-RAID
Solve Mirror Conflict
Rebuild Mirror Drive
Save and Exit Setup
Exit Without Saving
```

2. スペースを使って削除する RAID を選択します。
選択した設定の前には ▶ が表示されます。 キーを押すと設定が削除されます。
3. 確認のためのダイアログボックスが表示されます。<Y> で確定します。

```
JMicron Technology Corp. PCI-to-SATA II/IDE RAID Controller BIOS v0.97
[Main Menu] [Hard Disk Drive List]
Create RAID Disk Drive
Delete RAID Disk Drive
Revert HDD to Non-RAID
Solve Mirror Conflict
Rebuild Mirror Drive
Save and Exit Setup
Exit Without Saving
Model Name Capacity Type/Status
▶ HDD0: HDS722516VLSA80 164 GB RAID Inside
▶ HDD1: HDS722516DLA380 164 GB RAID Inside
[RAID Di]
▶ RDDC [numbers (HDDx)]
ALL DATA ON THE RAID WILL BE LOST!!
ARE YOU SURE TO DELETE (Y/N)? Y
[←→] TAB]-Switch Window [↑↓]-Select Item [ENTER]-Action [ESC]-Exit
```



<Y>を押すと HDD 内の全てのデータは失われます。

ディスクを Non-RAID にリセット

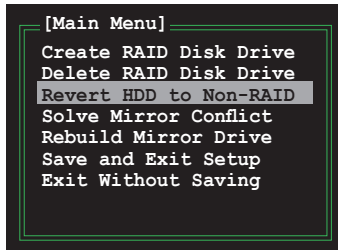


JMB363 から RAID を設定する際は、他のプラットフォームで RAID として過去に設定された HDD を選択することはできません。

このような HDD を使用して JMB363 から RAID を設定する場合は、ディスクを non-RAID にリセットする必要があります。その際、全てのデータは失われます。

手順

1. JMB363 RAID BIOS メインメニューで、上下矢印キーを使用して「Revert HDD to non-RAID」をハイライト表示させ <Enter> を押します。



2. スペースバーを使ってリセットする HDD を選択します。
選択した HDD の前には ▶ 印が表示されます。
3. 確認ダイアログボックスが表示されます。<Y> で確定、または <N> を押してください。



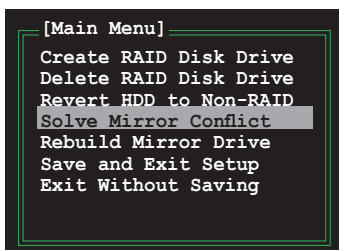
<Y> を押すと、HDD の全てのデータは失われます。

ミラーコンフリクトの解消

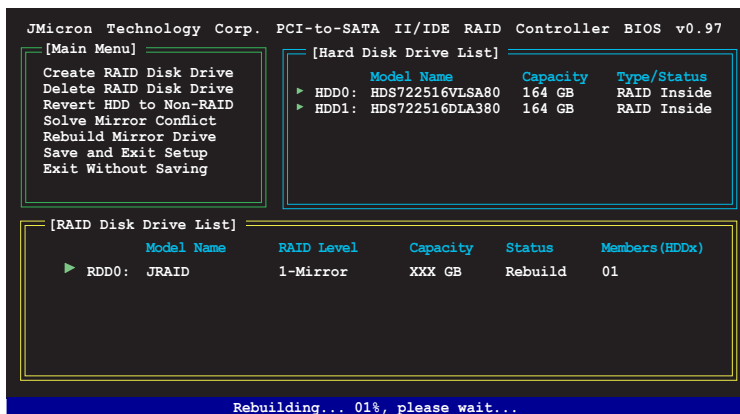
RAID 1(ミラー)に設定されたディスクを1度システムから取り外し再接続すると、2台のディスクには全く同じデータが保存されているため、システムがソースドライブを特定することができず、ミラーコンフリクトが生じます。このオプションで、ソースドライブを設定し、ソースドライブのコンテンツに従ってミラードライブを再設定します。

手順

1. JMB363 RAID BIOS メニューで、上下矢印キーを使用して「Solve Mirror Conflict」をハイライト表示させ <Enter> を押します。



2. スペースを使用して HDD ソースドライブとして設定する HDD を選択します。選択した HDD の前には ▶ が表示されます。
3. <TAB> を使用して RAID Disk Drive List メニューへ進み、設定する RAID 設定をハイライト表示させます。 を押してミラーを再設定します。画面下のステータスバーには、再設定の進行状況が表示されます。



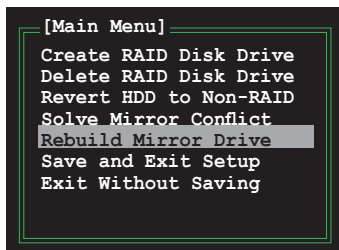
ミラードライブの再構築

RAID 1 (ミラー) に設定されたディスクを一度システムから取り外し再接続すると、ダイアログボックスが表示されます。ミラードライブを再構築する場合は <Y> しない場合は <N> を押します。

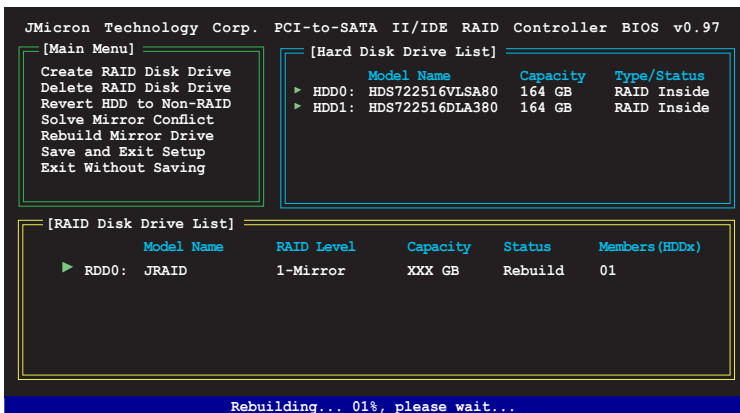
このオプションではミラードライブを後から再構築し、2台のハードディスク間のデータを同期化することができます。

手順

1. メイン JMB363 RAID BIOS メニューで、上下矢印キーを使用して「Rebuild Mirror Drive」をハイライト表示させ <Enter> を押します。



2. <TAB> を使用して「RAID Disk Drive List」メニューへ進み、設定する RAID 設定をハイライト表示させます。 を押してミラーを再設定します。
画面下のステータスバーには、再設定の進行状況が表示されます。



設定を保存する

設定が完了したら、上下矢印キーを使用して「Save & Exit Setup」をハイライト表示させ、<Enter>を押すと RAID 設定が保存され、JMB363 RAID BIOS を終了します。

確認ダイアログボックスが表示されます。<Y> で確定、または <N> を押して JMB RAID BIOS メニューに戻ります。

5.5 RAID /SATAドライバディスクを作成する

Windows® 2000/XP OS をRAID に組み込まれた HDD にインストールするとき、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。

5.5.1 OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に を押し、BIOS に入ります。
3. 光学ドライブをプライマリブートデバイスに設定します。
4. サポート CD を光学ドライブにセットします。
5. 設定を保存し BIOS を退出します。
6. 「Press any key to boot from the optical drive」が表示されたら、任意のキーを押します。
7. メニューが表示されたら <1> を押して RAID ドライバディスクを作成します。
8. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピードライブにセットし <Enter> を押します。
9. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

5.5.2 Windows®環境で RAID/SATAドライバディスクを作成する

手順

1. Windows®を起動します。
2. サポート CD を光学ドライブにセットします。
3. Drivers メニューが表示されたら、「JMicron JMB363 Driver Disk」をクリックし JMicron RAID ドライバディスクを作成します。
4. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをセットします。
5. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。



フロッピーディスクをライトプロテクトしてウィルスの攻撃から守ります。

RAID ドライバをインストールする

1. OS のインストール中に、「サードパーティの SCSI または RAID ドライバをインストールしている場合、F6 キーを押す」という指示が表示されます。
2. <F6> を押し、RAID ドライバディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

本製品がサポートするCPUについて

4
CPU の機能

Chapter



A.1	Intel® EM64T.....	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー).....	A-1
A.3	Intel® Hyper-Threading Technology	A-3

A.1 Intel® EM64T



- 本製品は 32-bit OS で動作する Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサに対応しています。
- 本製品は EM64T対応の BIOS ファイルを内蔵しています。最新の BIOS ファイルは ASUS の Web サイト (www.asus.co.jp/) からダウンロードすることができます。BIOS ファイルのアップデートについての詳細は、Chapter 4 をご覧ください。
- EM64T の機能の詳細は、www.intel.co.jp をご覧ください。
- Windows® 64-bit OS の詳細は、www.microsoft.com/japan/ をご覧ください。

Intel® EM64T 機能を使う

手順

1. Intel® EM64T 対応 Intel® Pentium® 4 CPU を取り付けます。
2. 64bit OS をインストールします。(Windows® XP Professional x64 Edition または Windows® Server 2003 x 64 Edition)
3. マザーボードコンポーネントとデバイス用にサポートCDから 64bit ドライバをインストールします。
4. 拡張カード、追加デバイス用に、64bit ドライバをインストールします。



拡張カードや追加デバイスの、64bit OS への対応については、各デバイスメーカーの Web サイトで確認してください。

A.2 EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー)



- 本製品には EIST 対応の BIOS ファイルが付属しています。最新の BIOS ファイルは ASUS のウェブサイト (www.asus.co.jp) からダウンロードすることができます。詳細は、Chapter 4 をご覧ください。
- EIST 機能の詳細は www.intel.com をご覧ください。

A.2.1 システム条件

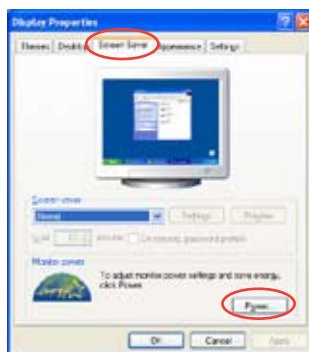
EIST の利用条件

- EIST 対応 Intel® Pentium® 4 プロセッサ
- EIST 対応 BIOS ファイル
- EIST 対応の OS (Windows® XP SP2/Windows® Server 2003 SP1/Linux 2.6 カーネル またはそれ以降のバージョン)

A.2.2 EIST を使う

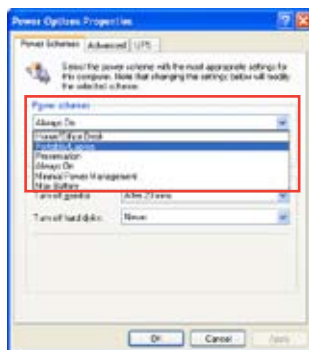
使用手順

1. コンピュータの電源を入れ、BIOS メニューに入ります。
2. Advanced Menu に進み、CPU Configuration をハイライト表示させ、<Enter> を押します。
3. Intel(R) SpeedStep Technology を [Automatic] に設定し、<Enter> を押します。(詳細 4-22 参照)
4. <F10> を押し、設定の変更を保存して BIOS セットアップから退出します。
5. 再起動したら、デスクトップ上で右クリックし、プロパティを選択。
6. 画面のプロパティ画面が表示されたら、スクリーンセーバーのタブをクリック。
7. モニタ電源の項目の「電源」ボタンをクリックし、電源オプションのプロパティを表示させます。



8. 電源設定の項目で、 をクリックし、「自宅または会社のデスク」と「常にオン」以外を選択。
9. 適用をクリックしOKをクリック。
10. 画面プロパティを閉じます。

電源設定を調整すると、CPUのロードが低いとき CPU 内部周波数は僅かに低くなります。



表示される画面や手順はOSのバージョンにより異なります。

A.3 Intel® Hyper-Threading Technology



- 本製品は Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサをサポートしています。
 - Hyper-Threading Technology は Windows® XP/2003 Server、Linux 2.4.x カーネル以降のバージョンにのみ対応しています。Linux 環境では、Hyper-Threading compiler を使用してコードを対応させます。対応しない OS をお使いの場合は、BIOS メニューの Hyper-Threading Technology の設定を [Disabled] にしてください。
 - Windows® XP Service Pack 1 以降のご使用を推奨します。
 - OS をインストールする前に、BIOS メニューで Hyper-Threading Technology の設定を [Enabled] にしてください。
 - Hyper-Threading Technology の詳細は www.intel.co.jp/jp/info/hyperthreading/ をご覧ください。
-

Hyper-Threading Technology を使う

手順

1. Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 の CPU を使用してください。
2. システムを立ち上げ、BIOS メニューに進みます。Advanced Menu で Hyper-Threading Technology を [Enabled] に設定してください。
(詳細 4-20 参照)
BIOS の Hyper-Threading Technology 設定項目は、Hyper-Threading Technology に対応した CPU が使われている場合のみ表示されます。
3. システムを再起動します。

Lined writing area consisting of 25 horizontal lines.